

1. 調査の概要

1.1. 調査の背景

多様な基礎生活圏を抱える中国圏では、中山間地域・島嶼部において進む人口減少、高齢化、また広域合併市における農業集落と中心市街地の空洞化の同時進行など、多様な困難に直面しているが、そうした困難に打ち勝ち、圏域の持続的発展を遂げるには、地域の底力を発揮・強化することが急務である。そのため、地域底力を強化する新基軸として、新たな交流連携である「農都連携」、による地域再生戦略の検討が必要である。

1.2. 調査の目的

本調査は、上記の課題を踏まえ、鳥取市を「農都連携による地域底力強化」のモデル地域として位置づけ、農業集落と中心市街地の活性化を一体的に推進するための具体的方策（農都連携クラスター展開プログラム）の検討・策定を行うことを目的とする。

1.3. 調査の内容

本調査は上記の背景及び目的を踏まえ、農業集落と中心市街地の活性化を一体的に推進するため下記に示す手順にて調査を行った。

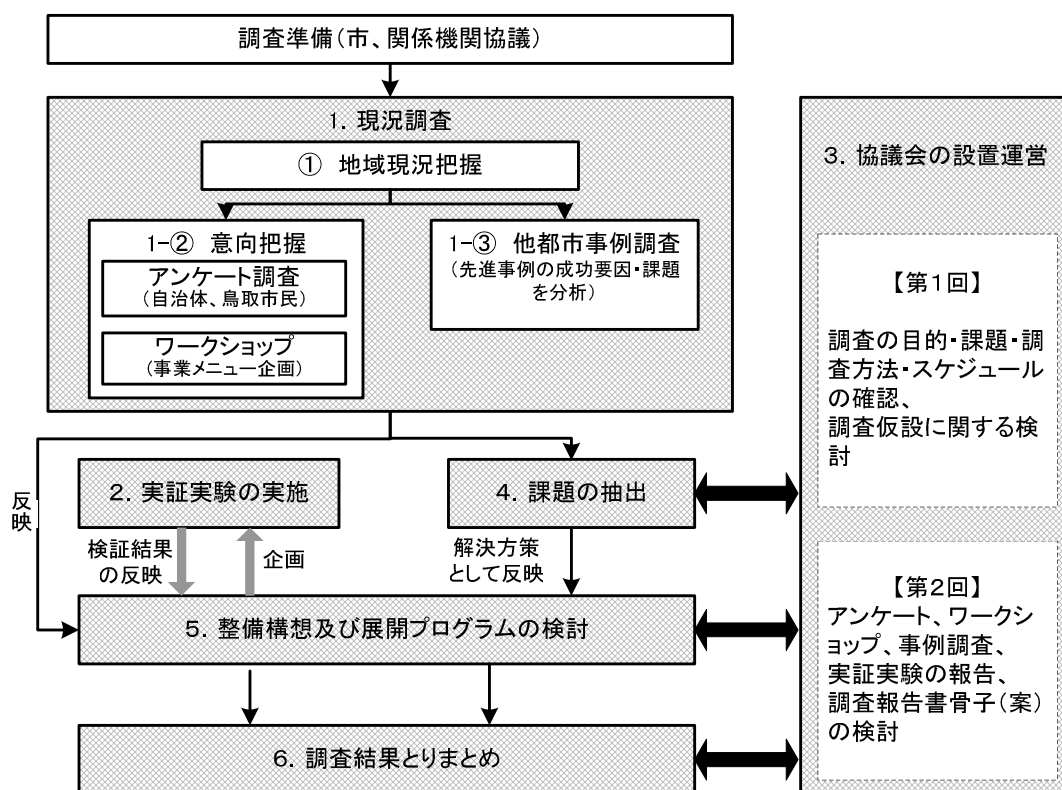


図 1 調査フロー

2. 現況調査

鳥取市をモデル地域として、農業集落と中心市街地の活性化を一体的に推進するために、市全域のほか、農業集落と中心市街地の空洞化の現況など、地域の現況及び意向を以下によって把握した。

2.1. 地域現況把握

(1) 市全域における人口減少・少子高齢化・過疎化

- 市全体として、近年の傾向として人口の減少（H17→H21：1.6%減）とともに、世帯数の増加（H17→H21：3.8%増）が進んでおり、核家族化が進展している傾向がうかがえる。＜図2＞
- 人口減少については、旧鳥取市域よりも旧佐治村や旧青谷町及び旧用瀬町などの市街地から離れた農業集落地域での減少が顕著になっている。＜表1＞
- 年齢階層別の将来人口の見通しでは、高齢化率について、平成17年の19.4%に対して、平成27年では23.9%に上昇すると見込まれており、高齢化の一層の進展が予想される。＜図3＞
- また、年少人口（0～14歳）についても、年少人口比率において平成17年の15.9%に対して、平成27年では約14.7%に減少すると見込まれており、少子化の進展が予想される。＜図3＞

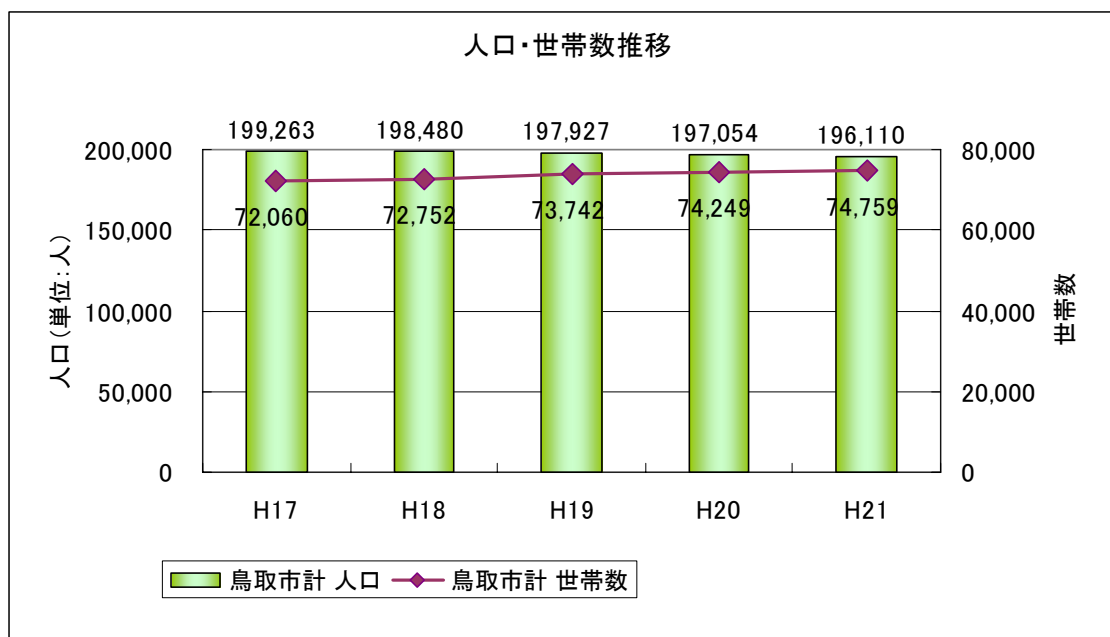


図2 鳥取市の人口・世帯数の推移

表 1 鳥取市の人口の推移(旧市町村地域別)

町 名	項目	H17	H18	H19	H20	H21
旧鳥取市	人口	149,606	149,280	149,311	148,901	148,541
	(H17年比)	100%	99.78%	99.80%	99.53%	99.29%
旧国府町	人口	8,592	8,718	8,613	8,696	8,724
	(H17年比)	100%	101.47%	100.24%	101.21%	101.54%
旧福部村	人口	3,475	3,440	3,376	3,341	3,304
	(H17年比)	100%	98.99%	97.15%	96.14%	95.08%
旧河原町	人口	8,299	8,155	8,062	7,945	7,835
	(H17年比)	100%	98.26%	97.14%	95.73%	94.41%
旧用瀬町	人口	4,229	4,125	4,073	4,024	3,954
	(H17年比)	100%	97.54%	96.31%	95.15%	93.50%
旧佐治村	人口	2,791	2,702	2,651	2,576	2,504
	(H17年比)	100%	96.81%	94.98%	92.30%	89.72%
旧気高町	人口	9,877	9,782	9,673	9,606	9,490
	(H17年比)	100%	99.04%	97.93%	97.26%	96.08%
旧鹿野町	人口	4,364	4,369	4,417	4,372	4,316
	(H17年比)	100%	100.11%	101.21%	100.18%	98.90%
旧青谷町	人口	8,030	7,909	7,751	7,593	7,442
	(H17年比)	100%	98.49%	96.53%	94.56%	92.68%
鳥取市 合計	人口	199,263	198,480	197,927	197,054	196,110
	(H17年比)	100%	99.61%	99.33%	98.89%	98.42%

(資料:住民基本台帳)

■:減少傾向の著しい部分

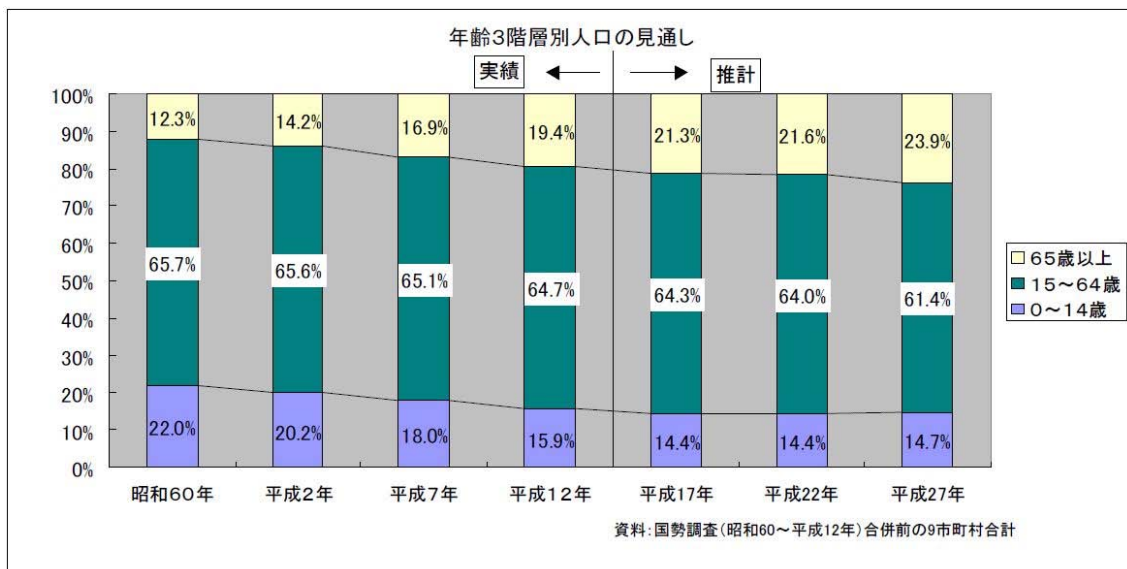
年齢3階層別人口の見通し

単位:人

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年
0~14歳	42,009	39,438	35,694	31,995	29,000	29,300	29,800
15~64歳	125,412	128,383	128,774	129,843	130,000	129,800	124,000
65歳以上	23,415	27,886	33,491	38,906	43,000	43,900	48,200
合計	190,836	195,707	197,959	200,744	202,000	203,000	202,000

資料:国勢調査(昭和60年~平成12年)合併前の9市町村合計

平成17年は、現時点で年齢3階層別人口が公表されていないため、推計値を掲載しています。



※出典:「第8次鳥取市総合計画(平成18年5月)」

図 3 鳥取市の年齢3階層別人口の見通し

(2) 農業集落での農業人口の減少、耕作放棄地の増加

- 鳥取市の農業人口は、平成7年から平成17年にかけて9,854人(21.3%)減少しており、県全体(減少率:21.1%)とほぼ同様に減少傾向を示している。<図4>
- 鳥取市の経営耕作地面積は、平成7年に比べ平成17年で1,330ha(19.1%)減少しており、県全体の減少率(17.5%)よりも大きな減少傾向となっており、市内で耕作放棄地が増加していることがうかがえる。<図4>
- 地域別の耕作放棄地については、旧福部村、旧鹿野町などの農村集落とともに、旧鳥取市などの市街地周辺部でも多く発生している。<表2>

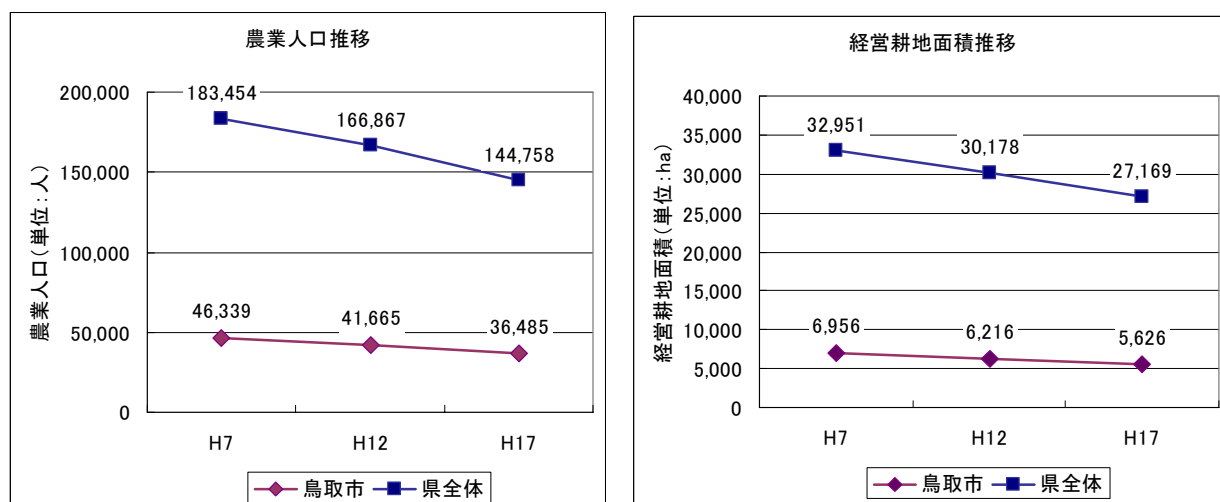


図4 鳥取市の農家人口・経営耕作地面積の推移

表2 鳥取市の人口の推移(旧市町村地域別)

H21.12.14現在

地域	耕作放棄地面積 (ha) [A]	経営耕地面積 (ha) [B]	耕作放棄率 (%) [A/B]
旧鳥取市	66.14	3,245.01	2.04
旧国府町	1.87	920.49	0.20
旧福部村	37.12	538.11	6.90
旧河原町	6.88	1,034.64	0.67
旧用瀬町	1.54	309.94	0.50
旧佐治村	1.08	518.11	0.21
旧気高町	3.99	991.14	0.40
旧鹿野町	19.90	507.38	3.92
旧青谷町	7.21	805.94	0.89
計	145.72	8,870.76	1.64

※経営耕地面積: 田、畑、樹園地、採草放牧地の面積の計

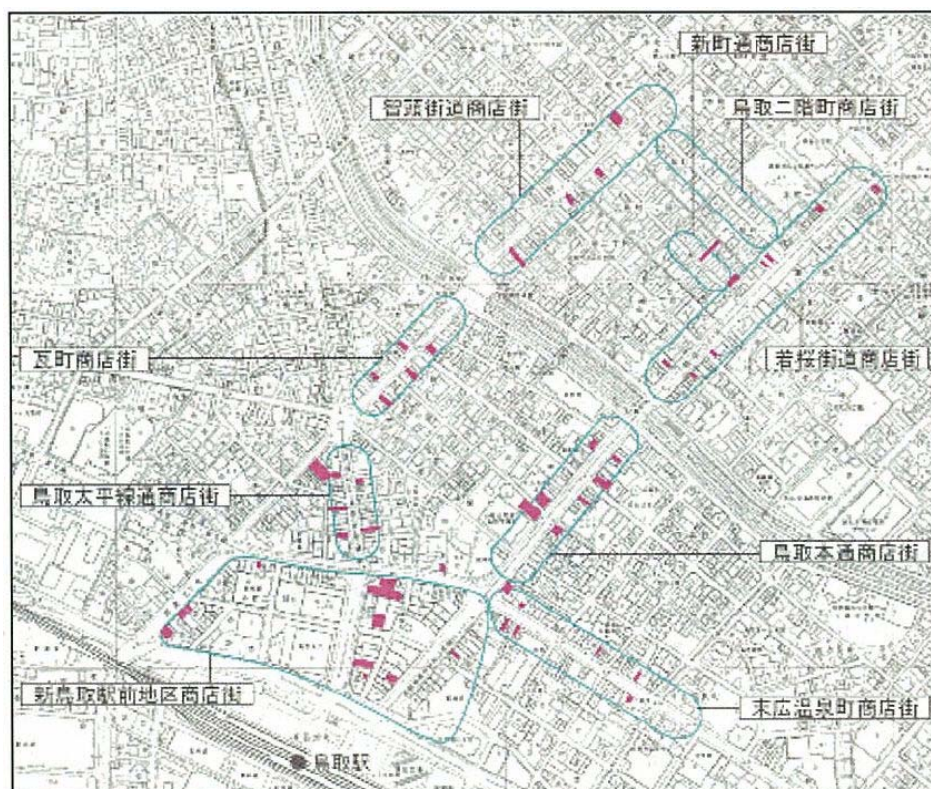
(3) 中心市街地の空洞化、空店舗の増加

- 中心市街地の空き店舗については、平成19年7月に53店舗に減少したものの、近年増加傾向にあり、平成21年10月で70店舗（約4年間で10店舗の増加、空き店舗率14.9%）となっており、中心市街地の空洞化が進んでいることがうかがえる。〈表3〉

表3 中心市街地における空き店舗の推移(主要商店街別)

	平成17年		平成18年		平成19年		平成20年		平成21年	平成21年10月
	7月	12月	7月	12月	7月	12月	7月	12月	10月	空き店舗率
鳥取本通商店街	6	9	6	10	9	11	8	9	7	11.7%
若桜街道商店街	14	12	12	10	10	15	15	13	15	17.9%
末広温泉町商店街	9	11	9	7	6	5	5	5	4	16.0%
新町通り商店街	2	2	3	3	2	2	2	2	3	10.7%
新鳥取駅前地区商店街	12	7	15	14	12	15	20	19	23	19.3%
鳥取二階町商店街	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
鳥取太平線通り商店街	3	7	4	4	5	5	5	6	8	22.2%
智頭街道商店街	7	7	5	5	4	5	4	5	5	8.6%
瓦町商店街	7	6	7	5	5	6	3	5	5	10.6%
9商店街 合計	60	61	61	58	53	64	62	64	70	14.9%

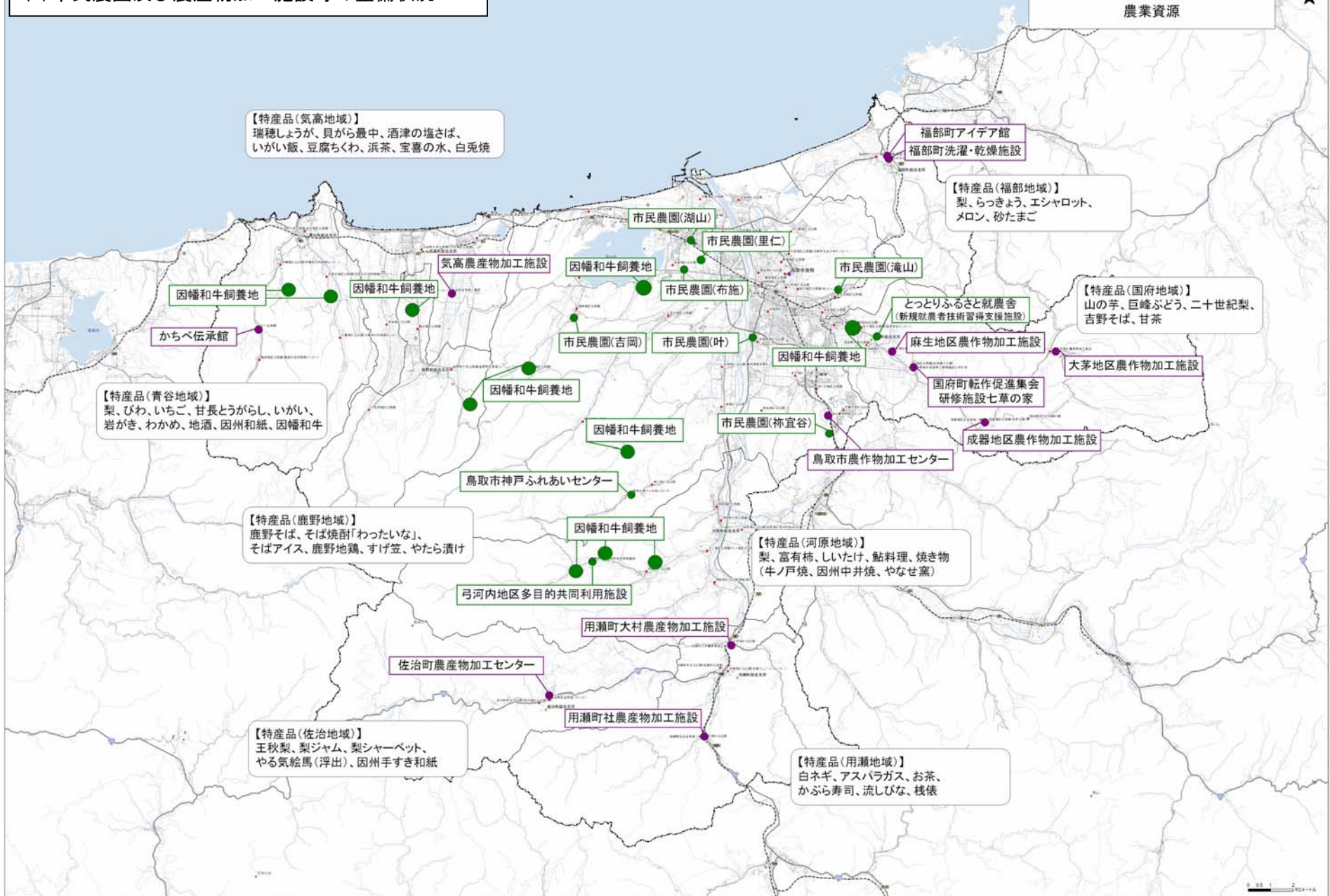
資料：鳥取市中心市街地活性化基本計画(H19.11、鳥取市)、鳥取商工会議所調べ



※出典：鳥取市中心市街地活性化基本計画(H19.11、鳥取市)

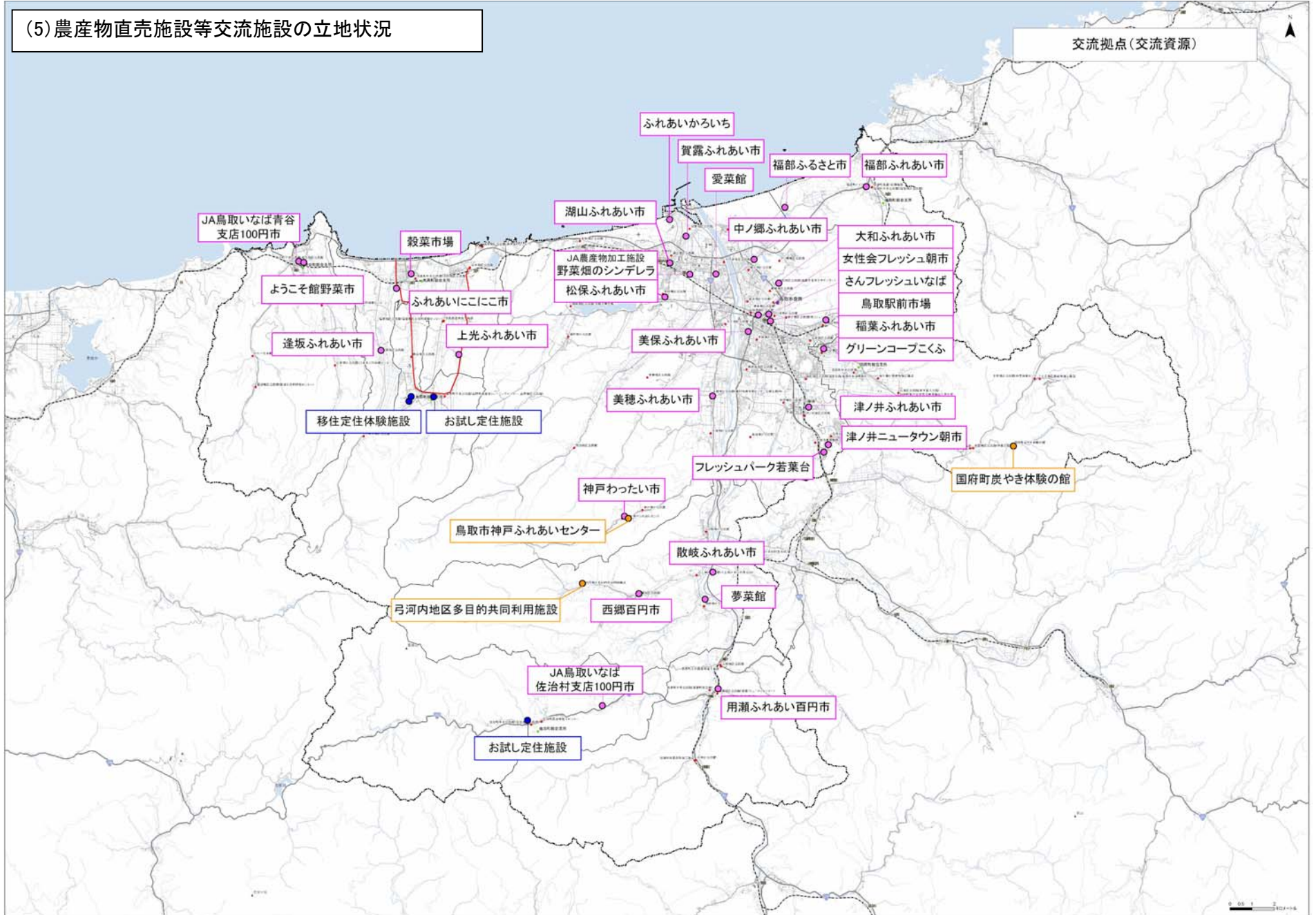
図5 (参考)商店街と空き店舗の分布(平成19年6月現在)

(4)市民農園及び農産物加工施設等の整備状況



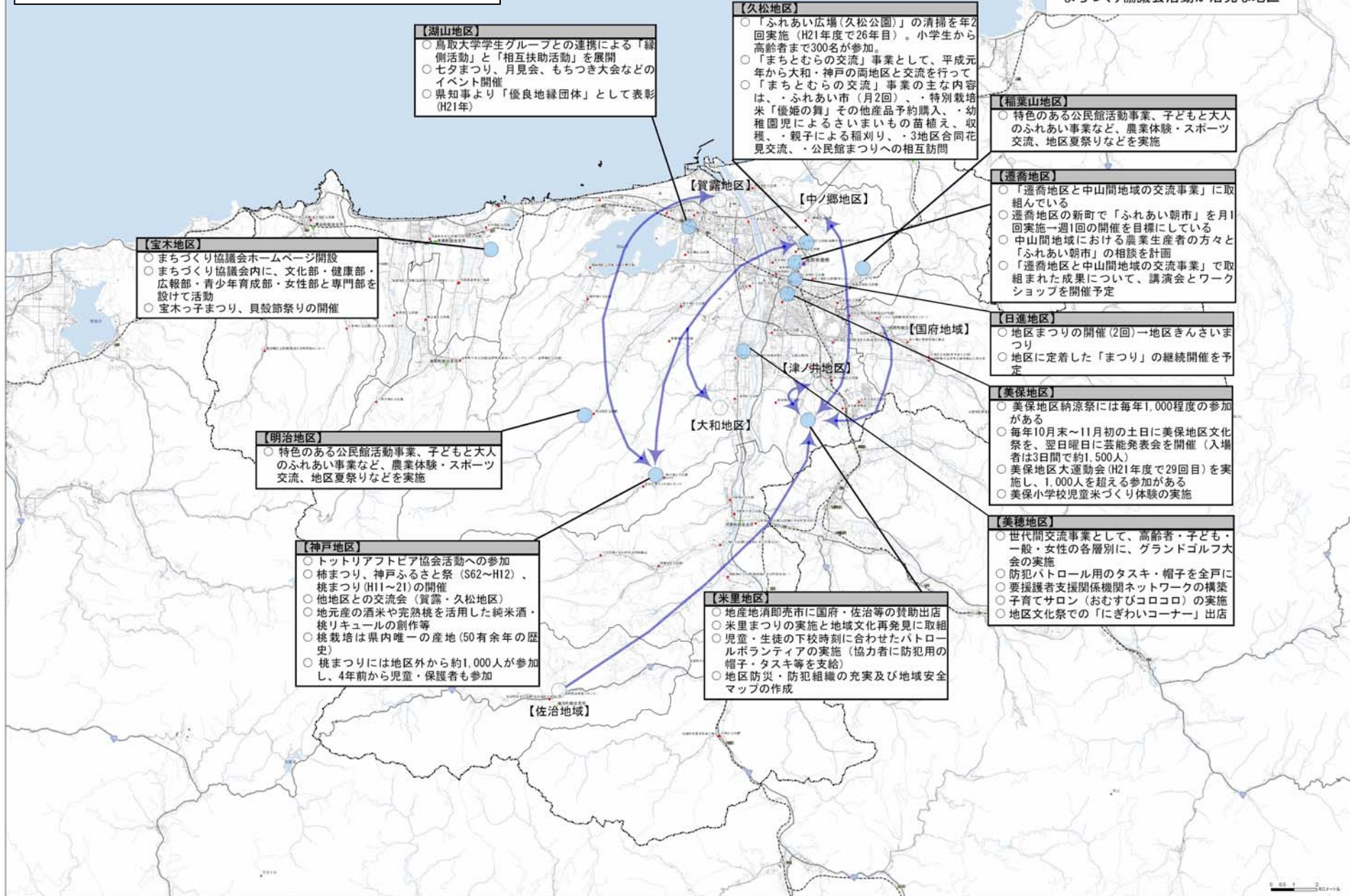
(5) 農産物直売施設等交流施設の立地状況

交流拠点(交流資源)



(6)まちづくり協議会における他地区との交流状況

まちづくり協議会活動が活発な地区



【湖山地区】

- 鳥取大学学生グループとの連携による「緑側活動」と「相互扶助活動」を展開
- セタまつり、月見会、もちつき大会などのイベント開催
- 県知事より「優良地縁団体」として表彰(H21年)

【久松地区】

- 「ふれあい広場(久松公園)」の清掃を年2回実施(H21年度で26年目)。小学生から高齢者まで300名が参加。
- 「まちとむらの交流」事業として、平成元年から大和・神戸の両地区と交流を行って
- 「まちとむらの交流」事業の主な内容は、ふれあい市(月2回)、特別栽培米「優姫の舞」その他産品予約購入、幼稚園児によるさいまいもの苗植え、収穫、親子による稲刈り、3地区合同花見交流、公民館まつりへの相互訪問

【稲葉山地区】

- 特色のある公民館活動事業、子どもと大人のふれあい事業など、農業体験・スポーツ交流、地区夏祭りなどを実施

【宝木地区】

- まちづくり協議会ホームページ開設
- まちづくり協議会内に、文化部・健康部・広報部・青少年育成部・女性部と専門部を設けて活動
- 宝木っ子まつり、貝殻節祭りの開催

【遷喬地区】

- 「遷喬地区と中山間地域の交流事業」に取り組んでいる
- 遷喬地区の新町で「ふれあい朝市」を月1回実施一週1回の開催を目標にしている
- 中山間地域における農業生産者の方々と「ふれあい朝市」の相談を計画
- 「遷喬地区と中山間地域の交流事業」で取組まれた成果について、講演会とワークショップを開催予定

【明治地区】

- 特色のある公民館活動事業、子どもと大人のふれあい事業など、農業体験・スポーツ交流、地区夏祭りなどを実施

【日進地区】

- 地区まつりの開催(2回)→地区きんさいまつり
- 地区に定着した「まつり」の継続開催を予定

【神戸地区】

- トットリアフトピア協会活動への参加
- 柿まつり、神戸ふるさと祭(S62~H12)、桃まつり(H11~21)の開催
- 他地区との交流会(賀露・久松地区)
- 地元産の酒米や完熟桃を活用した純米酒・桃リキュールの創作等
- 桃栽培は県内唯一の産地(50有余年の歴史)
- 桃まつりには地区外から約1,000人が参加し、4年前から児童・保護者も参加

【美保地区】

- 美保地区納涼祭には毎年1,000程度の参加がある
- 毎年10月末~11月初の土日に美保地区文化祭を、翌日曜日に芸能発表会を開催(入場者は3日間で約1,500人)
- 美保地区大運動会(H21年度で29回目)を実施し、1,000人を超える参加がある
- 美保小学校児童米づくり体験の実施

【米里地区】

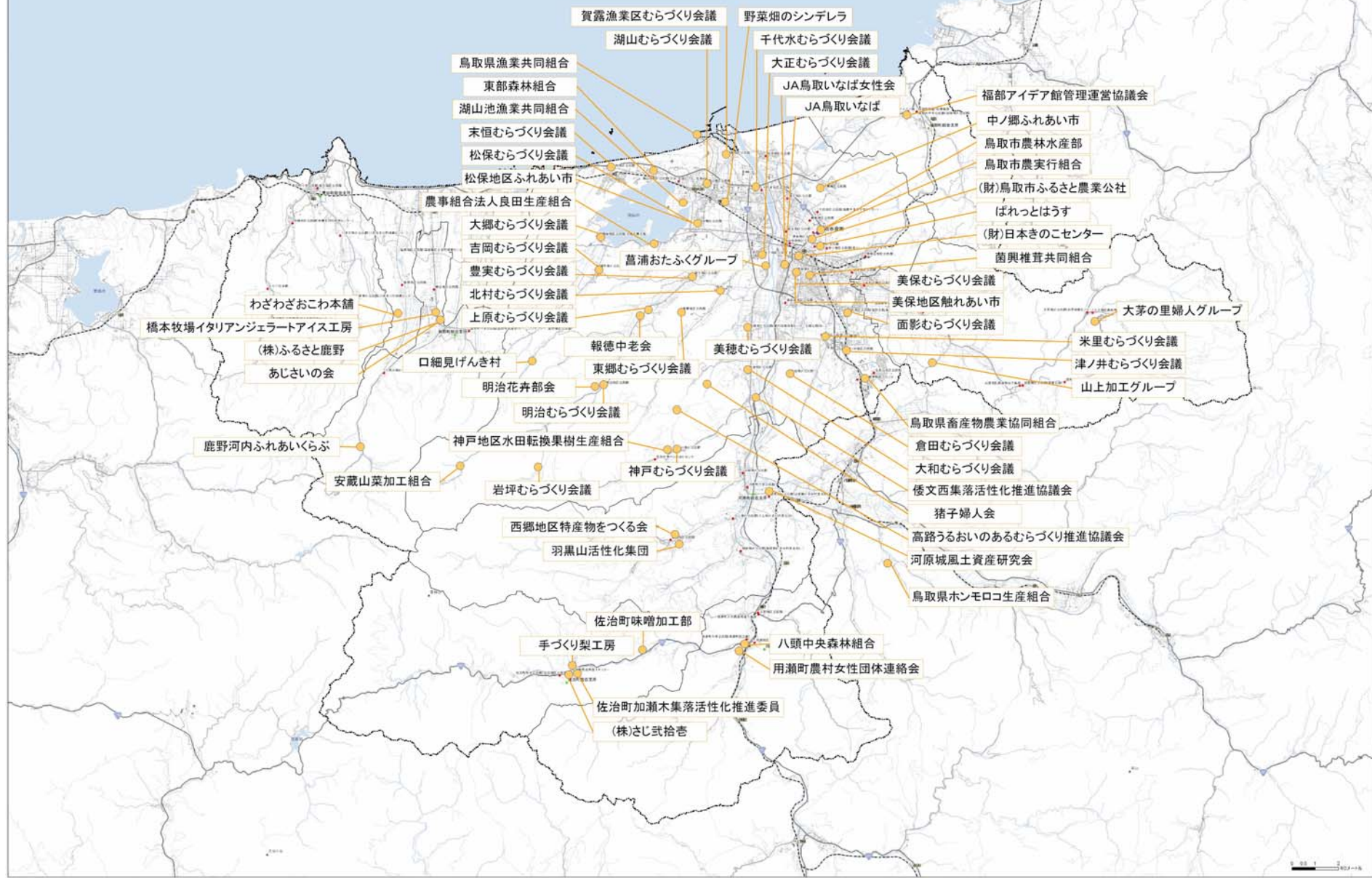
- 地産地消卸売市に国府・佐治等の賛助出店
- 米里まつりの実施と地域文化再発見に取組
- 児童・生徒の下课時刻に合わせたパトロールボランティアの実施(協力者に防犯用の帽子・タスキ等を支給)
- 地区防災・防犯組織の充実及び地域安全マップの作成

【美穂地区】

- 世代間交流事業として、高齢者・子ども・一般・女性の各層別に、グランドゴルフ大会の実施
- 防犯パトロール用のタスキ・帽子を全戸に
- 要援護者支援関係機関ネットワークの構築
- 子育てサロン(おむすびコロコロ)の実施
- 地区文化祭での「にぎわいコーナー」出店

(7)むらづくりに関する活動状況

トトリ・アフトピア協会 活動団体
(会員名簿:平成21年6月現在)



2.2. 意向把握

2.2.1 市民アンケート

(1) アンケートの目的

市の施策として、地域の人が安全に安心して生活できる環境・まちづくりとして“農業地域（集落）の振興”と“中心市街地の活性化”を連携して、より効果的に地域の活性化を図ることを検討するため、農都連携への市民意識を把握するために、市民アンケートを実施した。

アンケートでは、5つのカテゴリーに分け、意向把握を行う設計とした。

1つ目のカテゴリーは、回答者の属性について把握を行った（1-1）～1-7））。

2つ目のカテゴリーは、「現況の暮らしについて」の満足度の把握を行った（2-1））。

3つ目のカテゴリーは、「農業振興」の中で「農業への興味」「日頃の暮らしのなかでの農業とふれあう機会・活動」「農業とふれあう機会や活動を増やす場合に、今後取り組みたいもの」について把握を行った（3-1）～3-3））。

4つ目のカテゴリーは、「中心市街地活性化」の中で「中心市街地活性化推進に対して関心・興味がある取り組み」「日頃の暮らしのなかで中心市街地での活動」「中心市街地での活動を増やす場合に、今後取り組みたいもの」について把握を行った（4-1）～4-3））。

5つ目のカテゴリーは、「農都連携について、関心・興味がある取り組み」について把握を行った（5-1）～5-2））。

(2) 調査方法

鳥取市の市民を対象として、無作為に市内在住の18歳以上の1,000人を抽出し、郵送配布・回収により実施した。回収率は下記に示すとおりである。

- 配布：市内在住の18歳以上の市民1,000人
- 回答：481人（回収率48.1%）
- 調査実施期間：平成22年1月26日（金）～平成22年2月8日（月）

(3) アンケートの内容

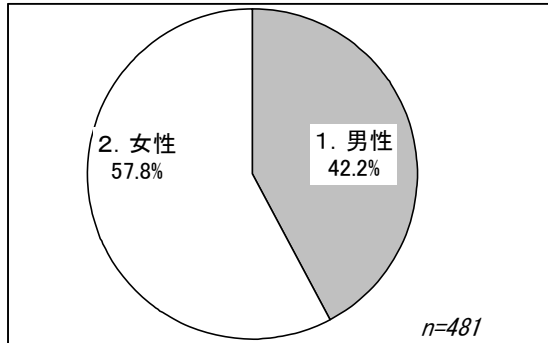
設問 (カテゴリー)		アンケート内容
【1】		性別、年齢、職業、同居家族人数、現住所、居住年数、出身地
【2】	問 2-1	お住まいの地区での現在の暮らしについて、どのように感じていますか。
【3】	問 3-1	【農業への興味】 あなたは、農業を振興するために行っている以下の取組みに興味はありますか。(該当するものすべて)。
	問 3-2	【日頃の暮らしのなかでの農業とふれあう機会・活動】 あなたは日頃の暮らしの中で、農業とふれあう機会があったり、活動を行っていますか。(該当するものすべて)。
	問 3-3	【農業とふれあう機会や活動を増やす場合に、今後取組みたいもの】 あなた自身が農業とふれあう機会や活動を増やす場合、どのようなことに取組みたいと思いますか。(該当するものすべて)。
【4】	問 4-1	【中心市街地活性化推進に対して関心・興味がある取組み】 あなたは、中心市街地の活性化を推進するために、実施している(実施した)以下の取組みに興味はありますか。(該当するものすべて)。
	問 4-2	【日頃の暮らしのなかで中心市街地での活動】 あなたは日頃の暮らしの中で、中心市街地での活動を行っていますか。(該当するものすべて)
	問 4-3	【中心市街地での活動を増やす場合に、今後取組みたいもの】 あなた自身が中心市街地での活動を増やす場合、どのようなことに取組みたいと思いますか。(該当するものすべて)。
【5】	問 5-1	【農都連携について、関心・興味がある取組み】 あなたが関心・興味のある中心市街地の活性化と農業振興の連携に関する取組みはどのようなことですか。(該当するものすべて)
	問 5-2	「農業地域と市街地の連携による地域活性化」について、自由意見。

(4) アンケートの調査結果

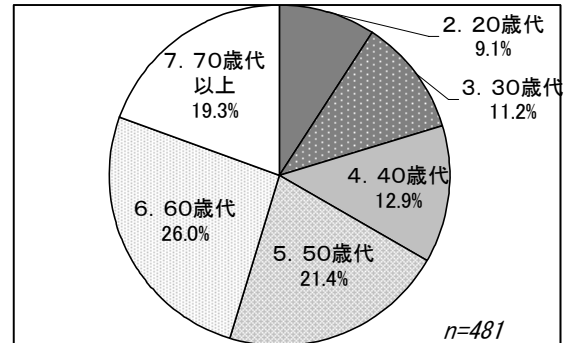
鳥取市の市民アンケート調査結果について、鳥取市の市民を対象として、無作為に市内在住の18歳以上の1,000人を抽出し、郵送配布・回収により実施した。回収率は下記に示すとおりである。

1) 回答者の属性

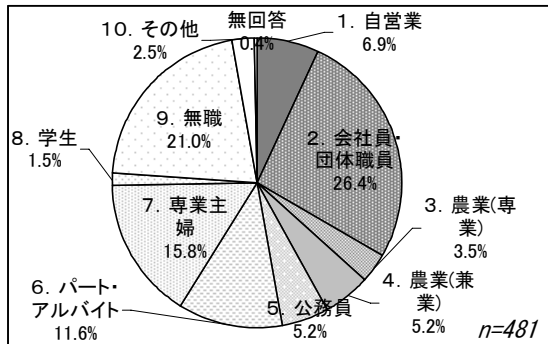
1-1) 性別



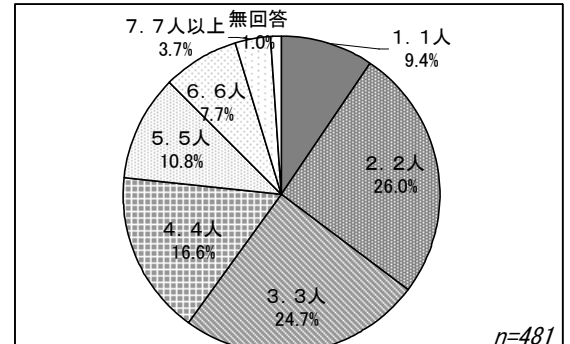
1-2) 年齢



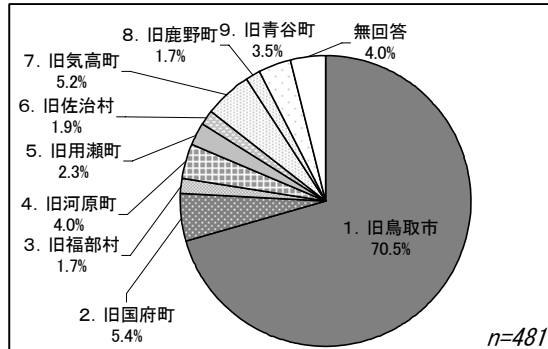
1-3) 職業



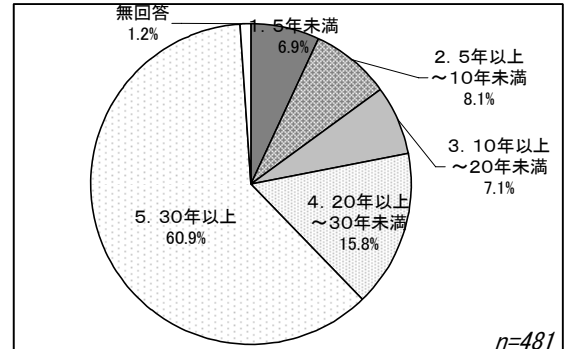
1-4) 同居している家族の人数



1-5) お住まいの地域



1-6) 鳥取市での居住年数



1-7) 出身地

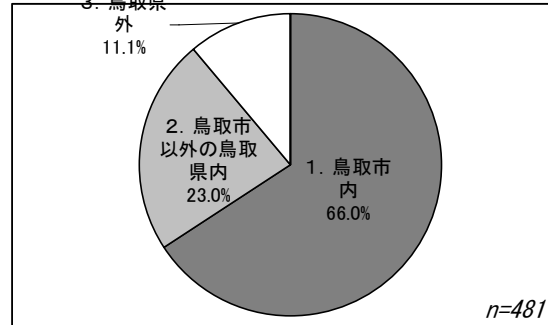


図 6 市民アンケート(回答者の属性)

2) 鳥取市の暮らしやすさ

(市内全体)

- 暮らしやすいと感じている市民は約 78%であり、暮らしにくいと感じている市民は約 20%となっている。<図 7>

(地域別の暮らしやすさ)

- 暮らしやすいと感じている市民が多い地域は、「旧鹿野町」で約 87%であり、次いで「旧鳥取市」の約 83%となっている。<図 8>

(年齢別の暮らしやすさ)

- 年齢別でみると、「20 歳代」が暮らしやすいと回答している割合が高く（約 82%）、最も低いのは「70 歳代以上」で約 70%となっている。<図 9>

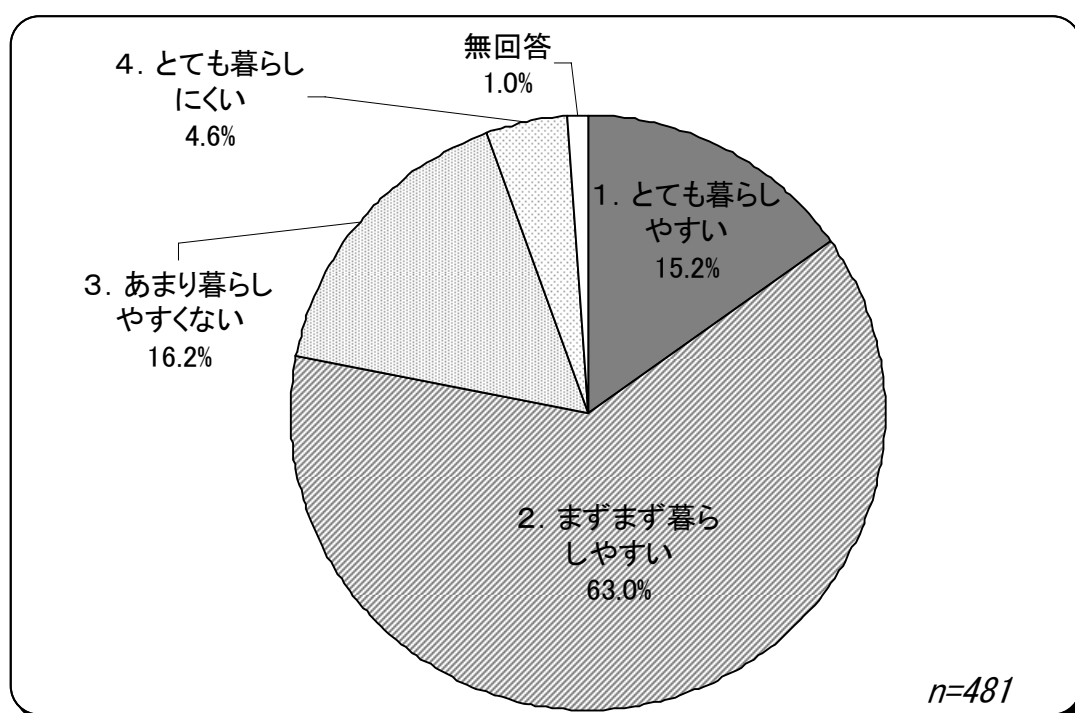


図 7 鳥取市の暮らしやすさ

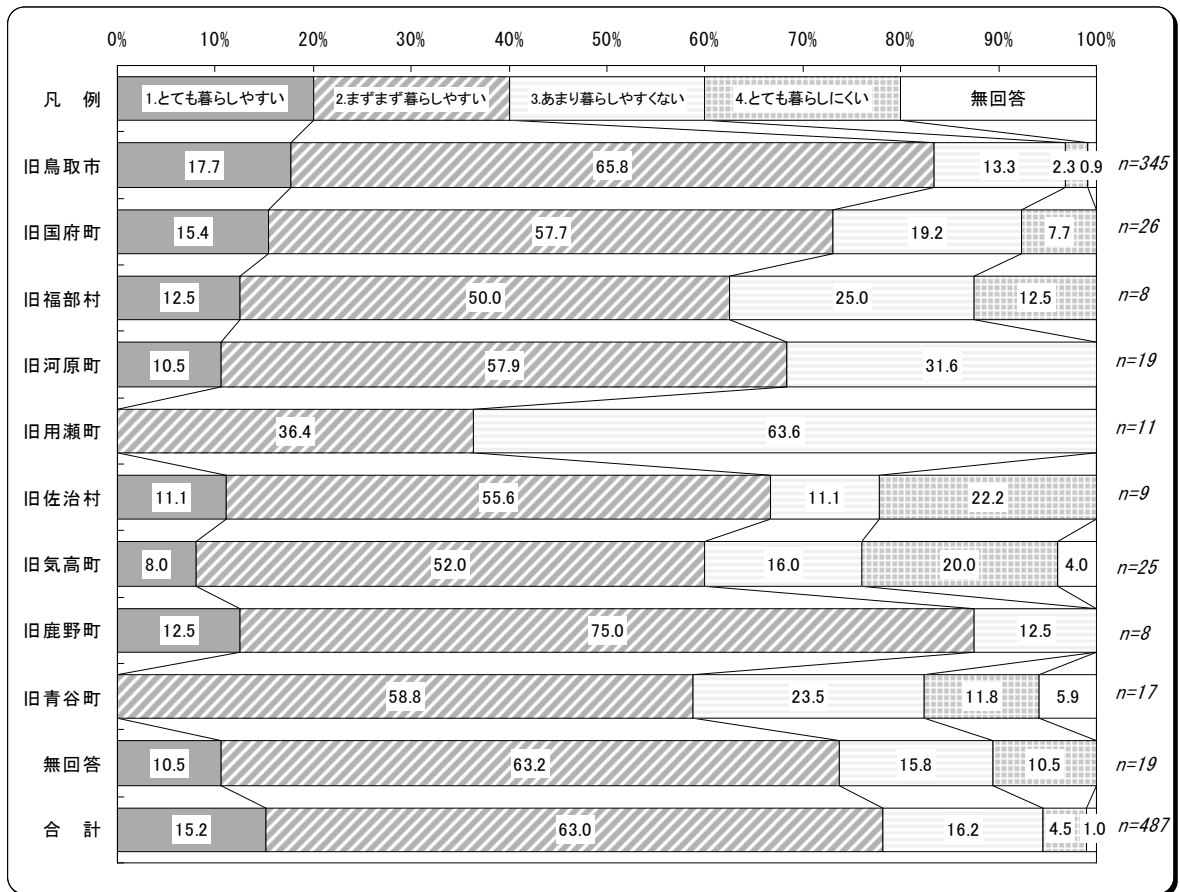


図 8 鳥取市の暮らしやすさ【地域別】

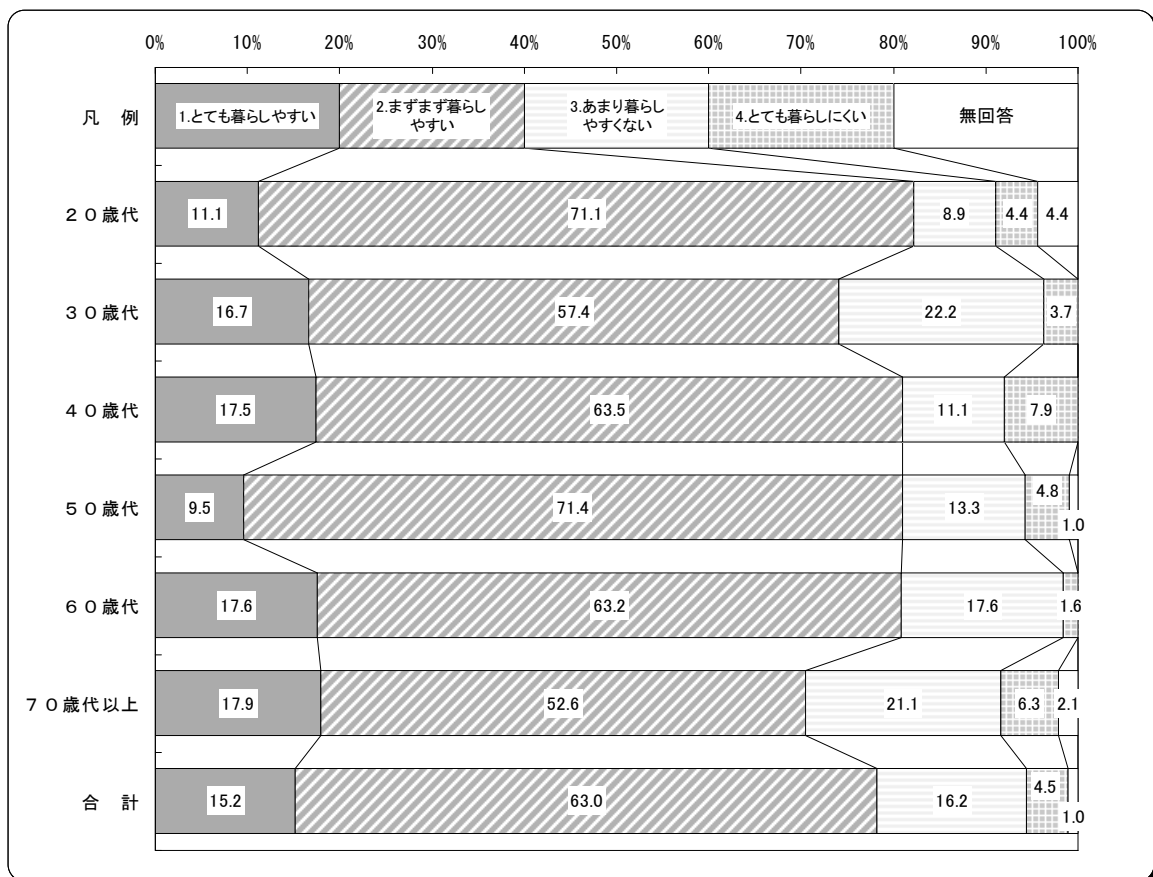


図 9 鳥取市の暮らしやすさ【年齢別】

3) 現況の農業振興の取組に対する興味

- イベントなど気軽に参加や利用できる取組みに対する関心・興味が高い。[3. 『とっとり自然のめぐり感謝祭』などのイベントを通じて、特産品や加工品の宣伝、地産地消の推進] (43.5%) が最も興味の割合が高く、次いで [5. 『鳥取地域ブランド農産物』など、農産物のブランド化の推進] (36.0%)、[6. 特産品などを詰め合わせた『とっとりふるさと宅配便』] (32.0%) となっている。<図7>

(年齢別<表4>)

- 20歳代は [5. 農産物のブランド化の推進] [6. ふるさと宅急便] という取組に対する興味が高く、[4. 啓発活動] [7. 有機堆肥による農産物栽培の推進] という取組に対する興味は低い。
- 30歳代についても、20歳代と同様に [4. 啓発活動] [7. 有機堆肥栽培] の取組に対する教務は低く、さらに、[1. 農業研修等の受入・指導] に対する興味も低い。
- 60歳代の [3. 地産地消の推進] に対する興味が高い。

(地域別<表5>)

- 旧福部村では、[1. 農業研修等の受入・指導] [2. 有休果樹園の紹介] の取組興味が高い。同地域が主体的に取り組んでいる施策(楽居大学)の影響が大きいと考えられる。
- 旧用瀬町では、[3. 地産地消] の興味が高く、さらに、[7. 有機堆肥栽培] への興味が他の地域に比べ、最も高い。
- 旧青谷町においても [7. 有機堆肥栽培] への興味が高い。

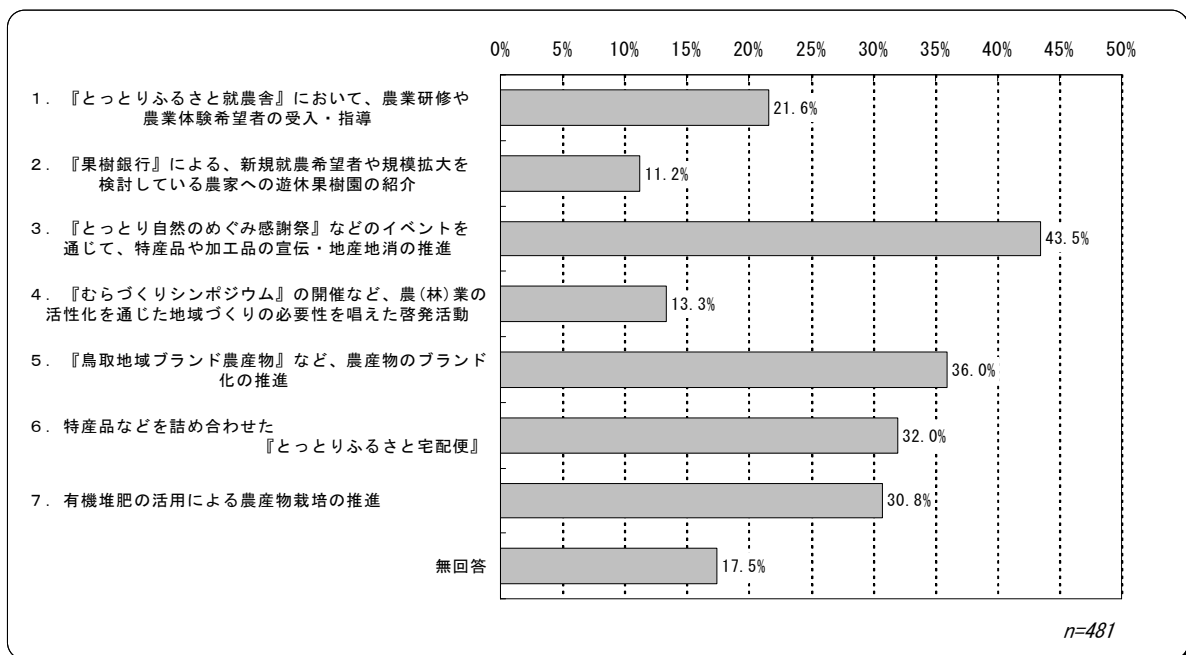


図 10 現況の農業振興の取組に対する興味

表 4 現況の農業振興の取組に対する興味【年齢とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-2) 年齢	1 入て、「とつとりふるさと就農舎」において、農業研修や農業体験希望者の受 ・指導	2 休や「果樹銀行」による、新規就農希望者の遊 果規模拡大を検討している農家への遊 樹模園の紹介	3 のの「とつとり自然のめぐみ感謝祭」など のイベントを通じて、特産品や加工品 の宣伝・地産地消の推進	4 づど、「むらづくりシンポジウム」の開催な づくりの(林)業の活性化を通じた地域 の必要性を唱えた啓発活動	5 産「鳥取地域ブランド農産物」など、農 物のブランド化の推進	6 ふ特産品などを詰め合わせた「とつとり るさと宅配便」	7 進有機堆肥の活用による農産物栽培の推 進	無回答	合計
20歳代	10 22.2	4 8.9	15 33.3	1 2.2	21 46.7	21 46.7	7 15.6	7 15.6	45 100.0
30歳代	6 11.1	3 5.6	25 46.3	1 1.9	19 35.2	15 27.8	11 20.4	11 20.4	54 100.0
40歳代	12 19.0	9 14.3	28 44.4	8 12.7	23 36.5	18 28.6	17 27.0	11 17.5	63 100.0
50歳代	27 25.7	16 15.2	36 34.3	17 16.2	41 39.0	32 30.5	36 34.3	16 15.2	105 100.0
60歳代	32 25.6	15 12.0	66 52.8	21 16.8	41 32.8	38 30.4	48 38.4	17 13.6	125 100.0
70歳代以上	19 20.0	7 7.4	42 44.2	17 17.9	29 30.5	32 33.7	31 32.6	24 25.3	95 100.0
合計	106 21.8	54 11.1	212 43.5	65 13.3	174 35.7	156 32.0	150 30.8	86 17.7	487 100.0

表 5 現況の農業振興の取組に対する興味【居住地とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-5)居住地	1 入て、「とつとりふるさと就農舎」において、農業研修や農業体験希望者の受 指導	2 休や「果樹銀行」による、新規就農希望者の遊 果規模拡大を検討している農家への遊 樹模園の紹介	3 のの「とつとり自然のめぐみ感謝祭」など のイベントを通じて、特産品や加工品 の宣伝・地産地消の推進	4 づく「むらづくりシンポジウム」の開催な ど、農(林)業の活性化を通じた地 づくりの必要性を唱えた啓発活動	5 産「鳥取地域ブランド農産物」など、農 物のブランド化の推進	6 ふる特産品などを詰め合わせた「とつとり さと宅配便」	7 進有機堆肥の活用による農産物栽培の推 進	無 回 答	合 計
旧鳥取市	78 22.6	38 11.0	164 47.5	41 11.9	135 39.1	118 34.2	107 31.0	51 14.8	345 100.0
旧国府町	6 23.1	3 11.5	9 34.6	5 19.2	7 26.9	8 30.8	8 30.8	7 26.9	26 100.0
旧福部村	3 37.5	2 25.0	1 12.5	1 12.5	1 12.5	2 25.0	0 0.0	2 25.0	8 100.0
旧河原町	4 21.1	2 10.5	8 42.1	3 15.8	6 31.6	7 36.8	5 26.3	2 10.5	19 100.0
旧用瀬町	3 27.3	1 9.1	6 54.5	2 18.2	2 18.2	4 36.4	7 63.6	1 9.1	11 100.0
旧佐治村	2 22.2	2 22.2	2 22.2	1 11.1	4 44.4	3 33.3	0 0.0	1 11.1	9 100.0
旧気高町	4 16.0	2 8.0	11 44.0	5 20.0	8 32.0	6 24.0	7 28.0	6 24.0	25 100.0
旧鹿野町	0 0.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	8 100.0
旧青谷町	2 11.8	1 5.9	5 29.4	2 11.8	3 17.6	4 23.5	7 41.2	6 35.3	17 100.0
無回答	4 21.1	2 10.5	3 15.8	3 15.8	6 31.6	3 15.8	6 31.6	8 42.1	19 100.0
合 計	106 21.8	54 11.1	212 43.5	65 13.3	174 35.7	156 32.0	150 30.8	86 17.7	487 100.0

4) 日頃の暮らしのなかでの農業とふれあう機会・活動

- [地元の農産物を買いに直売所（産直市場）に行くことがある（62.4%）] が最も多く、[地元の農産物や、地元の農産物を使った加工食品を買うように心がけている（43.2%）]、[市が認定している「地産地消の店」を利用したことがある（40.3%）] など、気軽に参加・利用できる取組みに対する回答割合が高くなっている。これは、[実家や親戚が農業を営んでいる（48.2%）] 回答割合が高いことから、特に食・農産物に対しては、より身近な問題として捉えられていると考えられる。一方で、野菜などの栽培や体験など自らの行動をとまなうものについては、総じて低い回答率となっている。〈図11〉

（年齢別〈表6〉）

- 20歳代は、[9. 地元農産物の購入] [10. 地産地消の店舗利用] [11. 産直市場の利用] という地元農産物に対する買物行動は他の世代に比べ低い。さらに、[16. 農業とふれあう機会や活動は特にならない] という回答の割合が高い。
- 20歳代と30歳代は、[13. 生ごみの堆肥化] に対する行動が他の世代に比べ著しく低い。
- 50歳代と60歳代は、[11. 産直市場の利用] の割合が他の世代に比べ高い。さらに、60歳代の [9. 地元農産物の購入] については、最も高い割合となっている。
- 70歳代では、[3. 野菜づくり] の割合が最も高い。一方で、[10. 地産地消の店舗利用] の割合が30歳代に次いで低い割合となり、日常移動の困難性がその要因と考えられる。

（地域別〈表7〉）

- 旧福部村、旧河原町、旧用瀬町において、[1. 実家や親戚が農業を営んでいる] という割合が高い。
- 旧河原町、旧用瀬町、旧鹿野町、旧青谷町という山間地域及び旧福部村において、[2. 自宅庭の家庭菜園で野菜づくり] の割合が高い。
- また、旧福部町、旧河原町、旧用瀬町、旧青谷町において、[13. 生ごみの堆肥化] の割合が高い。
- 一方、旧福部村、旧佐治村、旧気高町、旧青谷町では、[10. 地産地消の店舗利用] の割合が低く、地域の中での認定店舗があまり存在していないことの影響が考えられる。

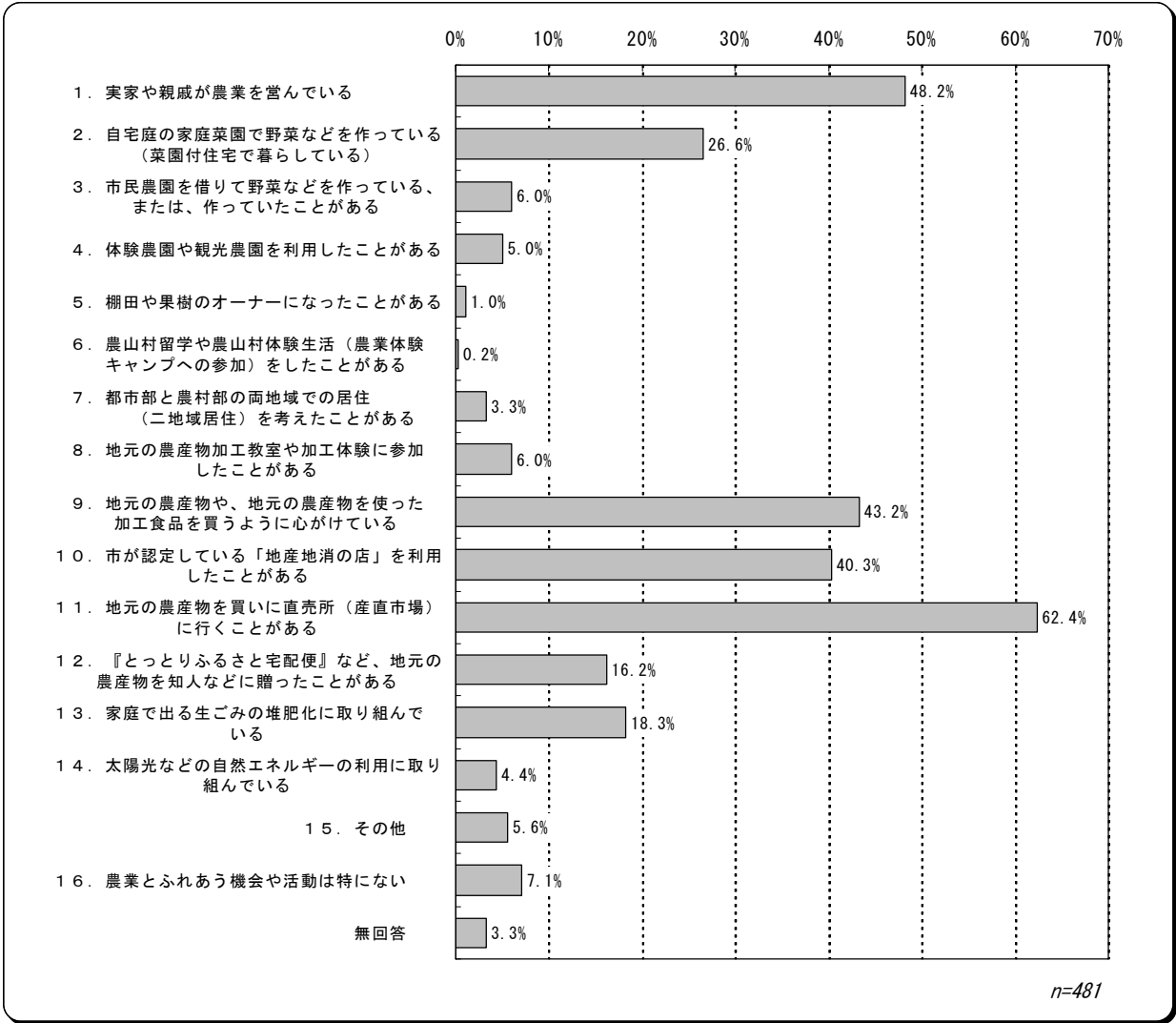


図 11 日頃の暮らしのなかでの農業とふれあう機会・活動

表 6 日頃の暮らしのなかでの農業とふれあう機会・活動【年齢とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-2)年齢	1 実家や親戚が農業を営んでいる	2 自宅庭の家庭菜園で野菜などを作っている (菜園付住宅で暮らしている)	3 市民農園を借りて野菜などを作っている、 または、作っていたことがある	4 体験農園や観光農園を利用したことがある	5 棚田や果樹のオーナーになったことがある	6 農山村留学や農山村体験生活(農業体験 キャンプへの参加)をしたことがある	7 都市部と農村部の両地域での居住(二地域 居住)を考えたことがある	8 地元の農産物加工教室や加工体験に参加し たことがある	9 地元の農産物や、地元の農産物を使った加 工食品を買うように心がけている	10 市が認定している「地産地消の店」を利用 したことがある	11 地元の農産物を買いに直売所(産直市場) に行くことがある	12 『とつとりふるさと宅配便』など、地元の 農産物を知人などに贈ったことがある	13 家庭で出る生ごみの堆肥化に取り組んでい る	14 太陽光などの自然エネルギーの利用に取り 組んでいる	15 その他	16 農業とふれあう機会や活動は特にならない	無回答	合計
20歳代	24 53.3	11 24.4	0 0.0	6 13.3	0 0.0	1 2.2	2 4.4	0 0.0	8 17.8	12 26.7	13 28.9	4 8.9	2 4.4	1 2.2	1 2.2	8 17.8	2 4.4	45 100.0
30歳代	22 40.7	10 18.5	2 3.7	6 11.1	0 0.0	0 0.0	2 3.7	3 5.6	20 37.0	18 33.3	27 50.0	3 5.6	3 5.6	0 0.0	3 7.9	8 14.8	1 1.9	54 100.0
40歳代	28 44.4	13 20.6	3 4.8	5 7.9	0 0.0	0 0.0	3 4.8	2 3.2	25 39.7	31 49.2	37 58.7	8 12.7	8 12.7	2 3.2	8 12.7	5 7.9	2 3.2	63 100.0
50歳代	58 55.2	36 34.3	4 3.8	3 2.9	1 1.0	0 0.0	5 4.8	8 7.6	45 42.9	49 46.7	77 73.3	19 18.1	28 26.7	5 4.8	6 5.7	3 2.9	1 1.0	105 100.0
60歳代	59 47.2	35 28.0	9 7.2	3 2.4	2 1.6	0 0.0	5 4.0	8 6.4	71 56.8	59 47.2	95 76.0	28 22.4	25 20.0	8 6.4	7 5.6	5 4.0	4 3.2	125 100.0
70歳代以上	43 45.3	26 27.4	12 12.6	1 1.1	2 2.1	0 0.0	0 0.0	8 8.4	41 43.2	28 29.5	55 57.9	17 17.9	22 23.2	5 5.3	3 3.2	5 5.3	6 6.3	95 100.0
合計	234 48.0	131 26.9	30 6.2	24 4.9	5 1.0	1 0.2	17 3.5	29 6.0	210 43.1	197 40.5	304 62.4	79 16.2	88 18.1	21 4.3	27 5.5	34 7.0	16 3.3	487 100.0

表 7 日頃の暮らしのなかでの農業とふれあう機会・活動【居住地とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-5)居住地	1 実家や親戚が農業を営んでいる	2 自宅庭の家庭菜園で野菜などを暮らしている(菜園付住宅で暮らしている)	3 市民農園を借りて野菜などを作っている、または作っていたことがある	4 体験農園や観光農園を利用したことがある	5 棚田や果樹のオーナーになったことがある	6 農山村留学や農山村体験生活(農業体験キャンプへの参加)をしたことがある	7 都市部と農村部の両地域での居住(二地域居住)を考えたことがある	8 地元の農産物加工教室や加工体験に参加したことがある	9 地元の農産物や、地元の農産物を使った加工食品を買うように心がけている	10 市が認定している「地産地消の店」を利用したことがある	11 地元の農産物を買いに直売所(産直市場)に行くことがある	12 『とつとりふるさと宅配便』など、地元の農産物を知人などに贈ったことがある	13 家庭で出る生ごみの堆肥化に取り組んでいる	14 太陽光などの自然エネルギーの利用に取り組んでいる	15 その他	16 農業とふれあう機会や活動は特にない	無回答	合計
旧鳥取市	160 46.4	79 22.9	22 6.4	22 6.4	4 1.2	1 0.3	13 3.8	16 4.6	162 47.0	153 44.3	226 65.5	57 16.5	47 13.6	11 3.2	19 5.5	28 8.1	9 2.6	345 100.0
旧国府町	14 53.8	7 26.9	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 7.7	4 15.4	7 26.9	9 34.6	16 61.5	5 19.2	7 26.9	2 7.7	3 11.5	1 3.8	1 3.8	26 100.0
旧福部村	6 75.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0	3 37.5	2 25.0	5 62.5	1 12.5	3 37.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	8 100.0
旧河原町	13 68.4	11 57.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 10.5	6 31.6	6 31.6	10 52.6	4 21.1	8 42.1	2 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	19 100.0
旧用瀬町	8 72.7	5 45.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	7 63.6	6 54.5	9 81.8	1 9.1	6 54.5	2 18.2	1 9.1	0 0.0	0 0.0	11 100.0
旧佐治村	4 44.4	3 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	4 44.4	2 22.2	4 44.4	4 44.4	2 22.2	1 11.1	0 0.0	1 11.1	0 0.0	9 100.0
旧気高町	13 52.0	8 32.0	1 4.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	0 0.0	5 20.0	7 28.0	13 52.0	1 4.0	2 8.0	0 0.0	2 8.0	1 4.0	2 8.0	25 100.0
旧鹿野町	4 50.0	4 50.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 25.0	3 37.5	6 75.0	2 25.0	2 25.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	8 100.0
旧青谷町	5 29.4	7 41.2	2 11.8	1 5.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.8	6 35.3	4 23.5	8 47.1	4 23.5	8 47.1	2 11.8	0 0.0	1 5.9	0 0.0	17 100.0
無回答	7 36.8	4 21.1	1 5.3	0 0.0	1 5.3	0 0.0	0 0.0	1 5.3	8 42.1	5 26.3	7 36.8	0 0.0	3 15.8	1 5.3	1 5.3	1 5.3	3 15.8	19 100.0
合計	234 48.0	131 26.9	30 6.2	24 4.9	5 1.0	1 0.2	17 3.5	29 6.0	210 43.1	197 40.5	304 62.4	79 16.2	88 18.1	21 4.3	27 5.5	34 7.0	16 3.3	487 100.0

5) 農業とふれあう機会や活動を増やす場合に、今後取組みたいもの

- [地元の農産物や、地元の農産物を使った加工食品を買うように心がけたい (39.1%)]、[地元の農産物を買いに直売所(産直市場)に行ってみたい (38.5%)]と、気軽に参加・利用できる取組みへの回答が高いなかで、[自宅庭の家庭菜園で野菜などを作りたい(菜園付住宅で暮らしたい)]回答した人も34.5%おり、自ら栽培や体験に取組みたい意向を持つ市民が一定程度存在することが確認できる。<図12>

(年齢別<表8>)

- 20歳代は、[1.自宅庭での野菜づくり][16.自然エネルギー利用]に対する取組意欲が高い。一方で、[9.地元農産物の加工品の体験参加][10.地元農産物加工品の購入][13.直売所の利用]に対する意向は低い。
- 30歳代は、20歳代と同様に、[13.直売所の利用]に対する意向は低い。
- 40歳代は、[3.体験農園や観光農園への利用]に対する取組意向は高い。
- 60歳代は、20歳代や30歳代で取組意欲が低かった[10.地元農産物加工品の購入][13.直売所の利用]について高い取組意欲がある。

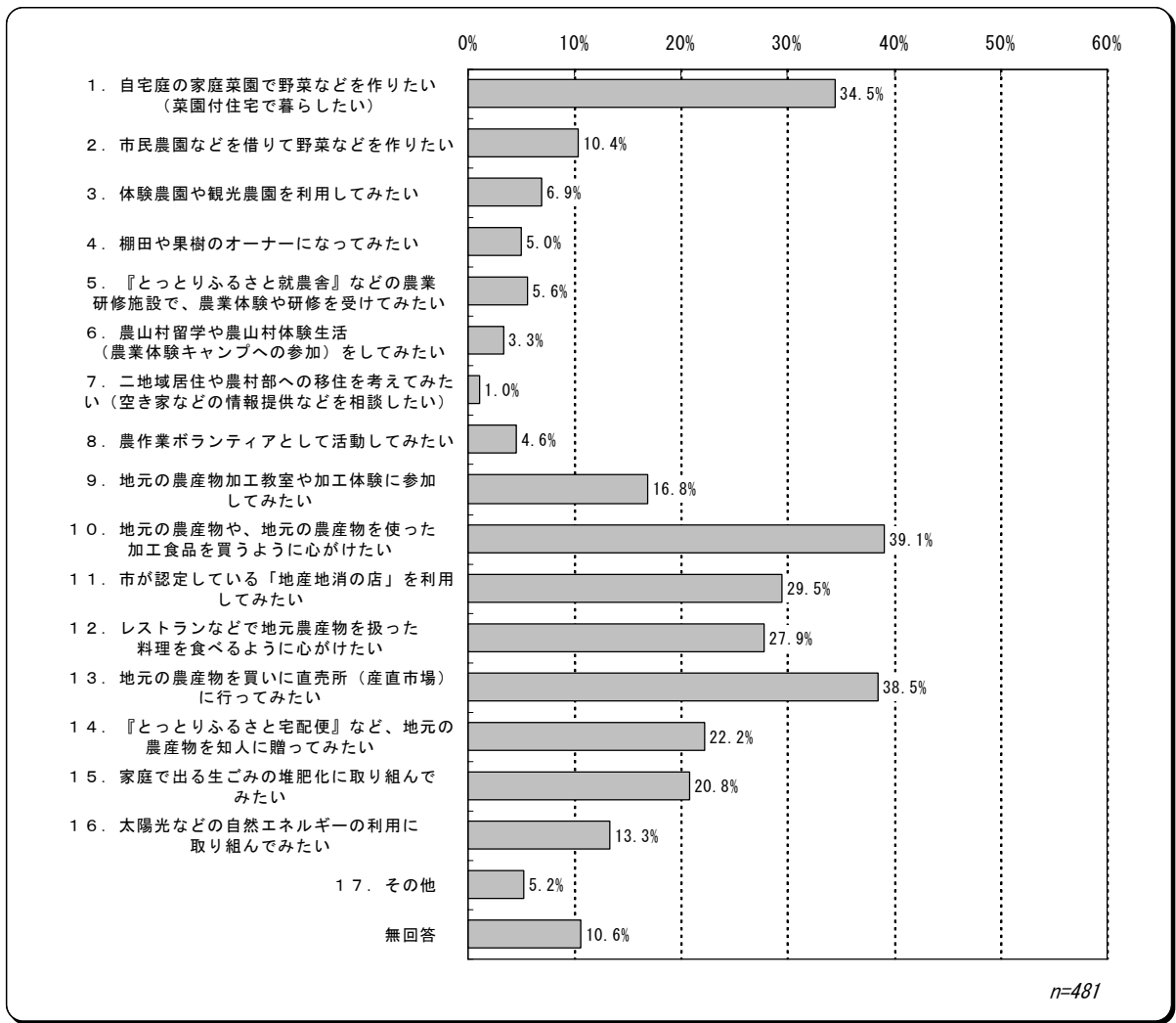


図 12 農業とふれあう機会や活動を増やす場合に、今後取組みたいもの

表 8 農業とふれあう機会や活動を増やす場合に、今後取組みたいもの【年代とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-2)年齢	1 自宅庭の家庭菜園で野菜などを作り たい(菜園付住宅で暮らしたい)	2 市民農園などを借りて野菜などを作 りたい	3 体験農園や観光農園を利用してみたい	4 棚田や果樹のオーナーになってみたい	5 『とっとりふるさと就農舎』などの農業 研修施設で、農業体験や研修を受けて みたい	6 農山村留学や農山村体験生活(農業体 験キャンプへの参加)をしてみたい	7 二地域居住や農村部への移住を考 えてみたい(空き家などの情報提供 などを相談したい)	8 農業ボランティアとして活動して みたい	9 地元の農産物加工教室や加工体験に 参加してみたい	10 地元の農産物や、地元の農産物を使 った加工食品を買うように心がけ たい	11 市が認定している「地産地消の店」 を利用してみたい	12 レストランなどで地元農産物を扱 った料理を食べるように心がけ たい	13 地元の農産物を買いに直売所(産直 市場)に行ってみたい	14 農産物を知人に贈ってみたい 『とっとりふるさと宅配便』など、 地元の農産物を知人に贈って みたい	15 家庭で出る生ごみの堆肥化に取り 組んでみたい	16 太陽光などの自然エネルギーの利 用に組み込んでみたい	17 その他	無 回 答	合 計
20歳代	24 53.3	2 4.4	1 2.2	1 2.2	2 4.4	5 11.1	0 0.0	3 6.7	3 6.7	12 26.7	13 28.9	16 35.6	6 13.3	7 15.6	6 13.3	11 24.4	1 2.2	2 4.4	45 100.0
30歳代	18 33.3	9 16.7	5 9.3	2 3.7	4 7.4	1 1.9	1 1.9	2 3.7	10 18.5	17 31.5	12 22.2	17 31.5	13 24.1	7 13.0	7 13.0	6 11.1	3 5.6	6 11.1	54 100.0
40歳代	22 34.9	7 11.1	11 17.5	6 9.5	3 4.8	2 3.2	2 3.2	4 6.3	13 20.6	21 33.3	15 23.8	20 31.7	20 31.7	10 15.9	14 22.2	6 9.5	5 7.9	5 7.9	63 100.0
50歳代	36 34.3	12 11.4	4 3.8	5 4.8	5 4.8	2 1.9	1 1.0	4 3.8	18 17.1	39 37.1	28 26.7	26 24.8	45 42.9	23 21.9	26 24.8	12 11.4	7 6.7	10 9.5	105 100.0
60歳代	37 29.6	15 12.0	11 8.8	7 5.6	10 8.0	5 4.0	0 0.0	7 5.6	27 21.6	63 50.4	48 38.4	37 29.6	69 55.2	37 29.6	30 24.0	22 17.6	5 4.0	9 7.2	125 100.0
70歳代以上	31 32.6	5 5.3	1 1.1	3 3.2	3 3.2	1 1.1	1 1.1	2 2.1	11 11.6	38 40.0	28 29.5	20 21.1	33 34.7	25 26.3	18 18.9	7 7.4	4 4.2	20 21.1	95 100.0
合 計	168 34.5	50 10.3	33 6.8	24 4.9	27 5.5	16 3.3	5 1.0	22 4.5	82 16.8	190 39.0	144 29.6	136 27.9	186 38.2	109 22.4	101 20.7	64 13.1	25 5.1	52 10.7	487 100.0

表 9 農業とふれあう機会や活動を増やす場合に、今後取組みたいもの【居住地とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-5)居住地	1 自宅庭の家庭菜園で野菜などを作り たい(菜園付住宅で暮らしたい)	2 市民農園などを借りて野菜などを作 りたい	3 体験農園や観光農園を利用してみた い	4 棚田や果樹のオーナーになつてみた い	5 『とっとりふるさと就農舎』などの農 業研修施設で、農業体験や研修を受 けてみたい	6 農山村留学や農山村体験生活(農業 体験キャンプへの参加)をしてみた い	7 二地域居住や農村部への移住を考 えてみたい(空き家などの情報提供 などを相談したい)	8 農作業ボランティアとして活動し てみたい	9 地元の農産物加工教室や加工体験 に参加してみたい	10 地元の農産物や、地元の農産物を 使った加工食品を買うように心が けたい	11 市が認定している「地産地消の店」 を利用してみたい	12 レストランなどで地元農産物を扱 った料理を食べるように心がけ たい	13 地元農産物を買ってみたい(産直市 場)	14 農産物を知人に贈ってみたい	15 『とっとりふるさと宅配便』など、 地元の家庭で出る生ごみの堆肥化 に取り組みたい	16 太陽光などの自然エネルギーの利 用に取り組みたい	17 その他	無回答	合計
旧鳥取市	119 34.5	43 12.5	27 7.8	22 6.4	17 4.9	11 3.2	4 1.2	21 6.1	58 16.8	143 41.4	106 30.7	106 30.7	133 38.6	84 24.3	64 18.6	44 12.8	16 4.6	32 9.3	345 100.0
旧国府町	10 38.5	0 0.0	2 7.7	1 3.8	3 11.5	3 11.5	0 0.0	0 0.0	4 15.4	8 30.8	4 15.4	8 30.8	11 42.3	3 11.5	5 19.2	3 11.5	4 15.4	4 15.4	26 100.0
旧福部村	2 25.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	0 0.0	8 100.0
旧河原町	7 36.8	1 5.3	1 5.3	0 0.0	2 10.5	1 5.3	0 0.0	0 0.0	5 26.3	7 36.8	4 21.1	3 15.8	6 31.6	3 15.8	6 31.6	2 10.5	1 5.3	3 15.8	19 100.0
旧用瀬町	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 45.5	7 63.6	4 36.4	2 18.2	2 18.2	1 9.1	5 45.5	1 9.1	0 0.0	2 18.2	11 100.0
旧佐治村	2 22.2	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 11.1	3 33.3	1 11.1	3 33.3	3 33.3	2 22.2	3 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 100.0
旧気高町	12 48.0	0 0.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	3 12.0	3 12.0	8 32.0	5 20.0	9 36.0	6 24.0	6 24.0	3 12.0	1 4.0	4 16.0	25 100.0
旧鹿野町	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 50.0	4 50.0	2 25.0	4 50.0	3 37.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	8 100.0
旧青谷町	8 47.1	2 11.8	0 0.0	0 0.0	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 23.5	5 29.4	5 29.4	2 11.8	7 41.2	3 17.6	5 29.4	5 29.4	0 0.0	1 5.9	17 100.0
無回答	3 15.8	1 5.3	0 0.0	0 0.0	1 5.3	0 0.0	1 5.3	0 0.0	1 5.3	8 42.1	6 31.6	4 21.1	9 47.4	2 10.5	3 15.8	3 15.8	1 5.3	5 26.3	19 100.0
合計	168 34.5	50 10.3	33 6.8	24 4.9	27 5.5	16 3.3	5 1.0	22 4.5	82 16.8	190 39.0	144 29.6	136 27.9	186 38.2	109 22.4	101 20.7	64 13.1	25 5.1	52 10.7	487 100.0

6) 中心市街地活性化推進に対して関心・興味がある取組み

- 農業振興における関心・興味度と同様に、イベントや生活に関連のある取組みに対するものへの関心・興味が高い。[3. 中心市街地を活性化するためのイベント実施] (29.2%) に対する関心が最も高く、次いで [1. 街なかの見所や、時間貸し駐車場の情報を掲載した『街なか(中心市街地) 散策マップ』] (26.6%)、[4. 交通量が減った若桜街道などを一方通行として行った『実証事業』] (26.4%) となっている。

<図13>

- また、[無回答] (27.2%) の割合も高いことから、中心市街地活性化推進に対する市民全体の無関心さもうかがえる。<図13>

(年齢別<表10>)

- 20歳代は、[3. イベント実施] に対する興味が高く、[5. パレットとっりの活用] [7. 空き店舗活用の鳥取えエもん蔵] [8. いなばのお袋市] に対する興味が低い。
- 30歳代も、20歳代と同様に [7. 空き店舗活用の鳥取えエもん蔵] に対する興味が低い。
- 70歳代は、[無回答] の割合が高く、一方で20歳代の割合が低いことから、中心市街地活性化に対する関心は若い世代で高く、高齢者世代で低いといえる。

(地域別<表11>)

- 旧佐治村、旧気高町、旧鹿野町、旧青谷町では、[無回答] の割合が高く、その他の取組興味も低いことから、中心市街地活性化に対する興味は低いといえる。

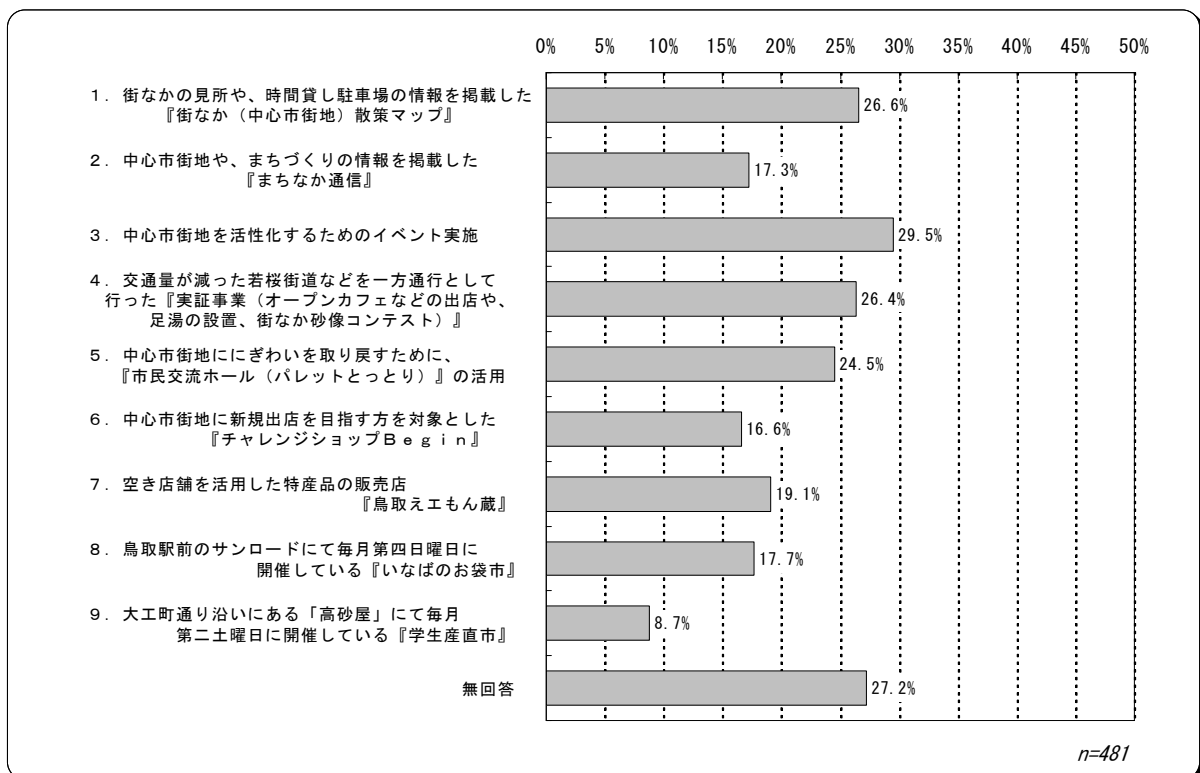


図13 中心市街地活性化推進に対して関心・興味がある取組み

表 10 現況の農業振興の取組に対する興味【年齢とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-2) 年齢	1 街なかの見所や、時間貸し駐車場の情報掲載した『街なか(中心市街地)散策マップ』	2 中心市街地や、まちづくりの情報を掲載した『まちなか通信』	3 中心市街地を活性化するためのイベント実施	4 交通量が減った若桜街道などを一方通行として行った『実証事業(オープンカフェなどの出店や、足湯の設置、街なか砂像コンテスト)』	5 中心市街地にぎわいを取り戻すために、『市民交流ホール(パレットととり)』の活用	6 中心市街地に新規出店を目指す方を対象とした『チャレンジショップBegging』	7 『空き店舗を活用した特産品の販売店』『鳥取えもん蔵』	8 『市鳥取駅前』のサンロードにて毎月第四日曜日に開催している『いなばのお袋』	9 大工町通り沿いにある「高砂屋」にて毎月第二土曜日開催している『学生産直市』	無回答	合計
20歳代	16 35.6	12 26.7	21 46.7	15 33.3	5 11.1	11 24.4	3 6.7	3 6.7	2 4.4	7 15.6	45 100.0
30歳代	10 18.5	8 14.8	17 31.5	16 29.6	8 14.8	10 18.5	5 9.3	6 11.1	3 5.6	14 25.9	54 100.0
40歳代	20 31.7	12 19.0	13 20.6	20 31.7	16 25.4	12 19.0	14 22.2	13 20.6	7 11.1	15 23.8	63 100.0
50歳代	24 22.9	20 19.0	26 24.8	25 23.8	26 24.8	16 15.2	18 17.1	22 21.0	9 8.6	30 28.6	105 100.0
60歳代	43 34.4	18 14.4	44 35.2	34 27.2	36 28.8	19 15.2	34 27.2	26 20.8	17 13.6	30 24.0	125 100.0
70歳代以上	16 16.8	14 14.7	22 23.2	20 21.1	27 28.4	12 12.6	20 21.1	16 16.8	5 5.3	37 38.9	95 100.0
合計	129 26.5	84 17.2	143 29.4	130 26.7	118 24.2	80 16.4	94 19.3	86 17.7	43 8.8	133 27.3	487 100.0

表 11 現況の農業振興の取組に対する興味【居住地とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-5)居住地	1 街なかの見所や、 時間をかけた見所や、 時間貸し駐車場の情 報を掲載した『街なか マップ』	2 中心市街地や、まちづくりの 情報掲載した『まちなか通信』	3 中心市街地を活性化するためのイ ベント実施	4 交通量が減った若狭街道などを一 方通行として行った『実証事業 (オーブンカフェなどの出店や、 足湯の設置、街なか砂像コン テスト)』	5 中心市街地にぎわいを取り戻すた めに、『市民交流ホール(パレ ットと)』の活用	6 中心市街地に新規出店を目指す 『i n 』	7 『空き店舗を活用した特産品の 販売』『鳥取エエもん蔵』	8 『鳥取市』に開催している『いな ばのお袋』	9 大工町通り沿いにある『高砂 屋』にて毎月第二土曜日に開 催している『学生産直市』	無回答	合計
旧鳥取市	104 30.1	62 18.0	105 30.4	99 28.7	87 25.2	60 17.4	69 20.0	67 19.4	28 8.1	82 23.8	345 100.0
旧国府町	9 34.6	6 23.1	5 19.2	4 15.4	6 23.1	5 19.2	4 15.4	5 19.2	3 11.5	6 23.1	26 100.0
旧福部村	1 12.5	2 25.0	1 12.5	3 37.5	2 25.0	1 12.5	3 37.5	4 50.0	4 50.0	1 12.5	8 100.0
旧河原町	4 21.1	3 15.8	10 52.6	6 31.6	7 36.8	4 21.1	2 10.5	2 10.5	0 0.0	5 26.3	19 100.0
旧用瀬町	2 18.2	3 27.3	8 72.7	5 45.5	4 36.4	3 27.3	3 27.3	3 27.3	4 36.4	2 18.2	11 100.0
旧佐治村	0 0.0	2 22.2	2 22.2	1 11.1	2 22.2	1 11.1	2 22.2	1 11.1	1 11.1	4 44.4	9 100.0
旧気高町	3 12.0	1 4.0	3 12.0	6 24.0	4 16.0	5 20.0	7 28.0	2 8.0	1 4.0	9 36.0	25 100.0
旧鹿野町	2 25.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	4 50.0	8 100.0
旧青谷町	0 0.0	3 17.6	4 23.5	5 29.4	3 17.6	0 0.0	3 17.6	1 5.9	0 0.0	9 52.9	17 100.0
無回答	4 21.1	1 5.3	3 15.8	1 5.3	3 15.8	0 0.0	0 0.0	1 5.3	2 10.5	11 57.9	19 100.0
合計	129 26.5	84 17.2	143 29.4	130 26.7	118 24.2	80 16.4	94 19.3	86 17.7	43 8.8	133 27.3	487 100.0

7) 日頃の暮らしのなかで中心市街地での活動

- [身内やグループの会合を行う際には、中心市街地の飲食店を利用している (29.5%)]、[中心市街地で開催されるイベントに、利用者・見学者として参加している (22.9%)]と、“何かのついでに”といった日常的な取組みに対する回答の割合が高い。<図14>
- また、無回答が36.2%と高いことも、中心市街地と関わりの少ない市民が多いことを表している。<図14>
(年齢別<表12>)
- 70歳代は、[1.中心市街地での買い物を心がけている]と回答している割合が他の世代に比べ高い割合となっている。
(地域別<表13>)
- 旧用瀬町、旧佐治村、旧気高町、旧鹿野町、旧青谷町は、[無回答]の割合が高い。中心市街地活性化への暮らしの中での行動は、地域特性として困難でることがうかがえる。

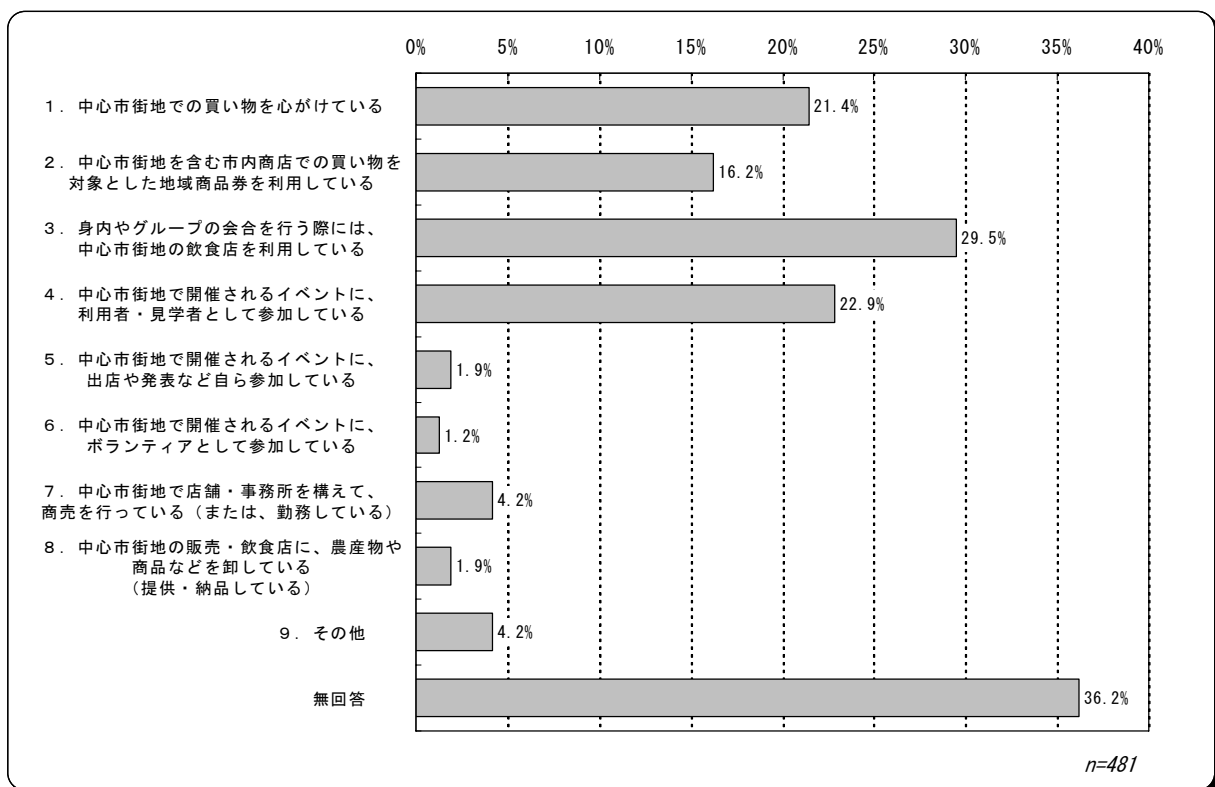


図 14 日頃の暮らしのなかで中心市街地での活動

表 12 日頃の暮らしのなかで中心市街地での活動【年齢とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比 (%)]

問1-2) 年齢	1 中心市街地での買い物を心がけている	2 中心市街地を含む地域商品券を利用している	3 身内やグループの会合を行う際には、中心市街地の飲食店を利用している	4 中心市街地で開催されるイベントに、利用者・見学者として参加している	5 中心市街地で開催されるイベントに、出店や発表など自ら参加している	6 中心市街地で開催されるイベントに、ボランティアとして参加している	7 中心市街地で店舗・事務所を構えている(商売を行っている)	8 中心市街地の販売・飲食店に、農産物や商品などを卸している(提供・納品している)	9 その他	無回答	合計
20歳代	6 13.3	3 6.7	12 26.7	9 20.0	3 6.7	1 2.2	0 0.0	0 0.0	5 11.1	18 40.0	45 100.0
30歳代	7 13.0	5 9.3	13 24.1	12 22.2	2 3.7	1 1.9	3 5.6	0 0.0	2 3.7	23 42.6	54 100.0
40歳代	10 15.9	13 20.6	20 31.7	18 28.6	2 3.2	2 3.2	3 4.8	2 3.2	3 4.8	20 31.7	63 100.0
50歳代	21 20.0	24 22.9	33 31.4	26 24.8	0 0.0	0 0.0	10 9.5	0 0.0	4 3.8	32 30.5	105 100.0
60歳代	31 24.8	19 15.2	42 33.6	33 26.4	0 0.0	1 0.8	2 1.6	4 3.2	5 4.0	39 31.2	125 100.0
70歳代以上	30 31.6	16 16.8	25 26.3	14 14.7	2 2.1	1 1.1	2 2.1	3 3.2	2 2.1	42 44.2	95 100.0
合計	105 21.6	80 16.4	145 29.8	112 23.0	9 1.8	6 1.2	20 4.1	9 1.8	21 4.3	174 35.7	487 100.0

表 13 日頃の暮らしのなかで中心市街地での活動【居住地とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-5)居住地	1 中心市街地での買い物を心がけている	2 中心市街地を含む市内商店での買い物 を対象とした地域商品券を利用している	3 身内やグループの会合を行う際には、 中心市街地の飲食店を利用している	4 中心市街地で開催されるイベントに、 利用者・見学者として参加している	5 中心市街地で開催されるイベントに、 出店や発表など自ら参加している	6 中心市街地で開催されるイベントに、 ボランティアとして参加している	7 中心市街地で店舗・事務所を構えて、 販売を行っている(または、勤務している)	8 中心市街地の販売・飲食店に、農産物 や商品などを卸している(提供・納品 している)	9 その他	無回答	合計
旧鳥取市	77 22.3	57 16.5	113 32.8	90 26.1	5 1.4	5 1.4	17 4.9	4 1.2	12 3.5	108 31.3	345 100.0
旧国府町	8 30.8	4 15.4	6 23.1	4 15.4	0 0.0	0 0.0	1 3.8	2 7.7	0 0.0	11 42.3	26 100.0
旧福部村	1 12.5	2 25.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	2 25.0	1 12.5	8 100.0
旧河原町	4 21.1	3 15.8	6 31.6	6 31.6	2 10.5	1 5.3	1 5.3	2 10.5	2 10.5	4 21.1	19 100.0
旧用瀬町	2 18.2	2 18.2	3 27.3	3 27.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 9.1	1 9.1	5 45.5	11 100.0
旧佐治村	2 22.2	2 22.2	3 33.3	1 11.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 55.6	9 100.0
旧気高町	5 20.0	3 12.0	4 16.0	4 16.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	12 48.0	25 100.0
旧鹿野町	0 0.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	5 62.5	8 100.0
旧青谷町	4 23.5	2 11.8	2 11.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.8	11 64.7	17 100.0
無回答	2 10.5	2 10.5	6 31.6	2 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 5.3	12 63.2	19 100.0
合計	105 21.6	80 16.4	145 29.8	112 23.0	9 1.8	6 1.2	20 4.1	9 1.8	21 4.3	174 35.7	487 100.0

8) 中心市街地での活動を増やす場合に、今後取組みたいもの

- 無回答者の割合も減少し、[7. 中心市街地に店舗・事務所を構えたい] や、[8. チャレンジショップに出店(応募)したい]、[9. 中心市街地の販売・飲食店に、農産物や商品などを卸したい] とのビジネス要素だけでなく、他の回答でも現在の活動状況よりも高い回答率を示し、中心市街地における潜在的魅力が失われていないことを示している。<図15>

(年齢別<表14>)

※表12【日頃の暮らしのなかでの活動】に対する、表13【今後取組みたい】において回答した増減率に着目して分析を行った。

- 20歳代では、[1. 中心市街地での買い物を心がけている(6人→16人)] [2. 地域商品券の利用(3人→12人)] と高い増加率を示している。また、[無回答(18人→7人)] と減少が著しく、中心市街地活性化に対して今後取組みたい意向が高いと考えられる。
- 30歳代でも、20歳代と同様に、[1. 中心市街地での買い物を心がけている(7人→15人)] と高い増加率を示している。
- 40歳代では、各回答について増加傾向にあり、[無回答(20人→10人)] と半減した。
- 50歳代では、他の世代に比べ、それほど高い増加率は示していない。
- 60歳代では、[4. イベントへの参加(33人→54人)] となり、団塊の世代としての退職後の余暇時間として、イベント参加という手軽な行動としての取組意向が高いと考えられる。
- 70歳代では、[9. 中心市街地の販売・飲食店に、農産物や商品などを卸したい(3人→7人)] と倍増している。

(地域別<表15>)

- 旧国府町、旧用瀬町では、[9. 中心市街地の販売・飲食店に、農産物や商品などを卸したい] という意向割合が他地域に比べ高い値となっている。

※表13【日頃の暮らしのなかでの活動】に対する、表15【今後取組みたい】において回答した増減率に着目して分析を行った。

- 旧鳥取市では、[1. 中心市街地での買い物を心がけている(77人→115人)] [4. イベントへの参加(90人→127人)] [6. イベントにボランティアとして参加(5人→18人)] について、高い増加率となっている。

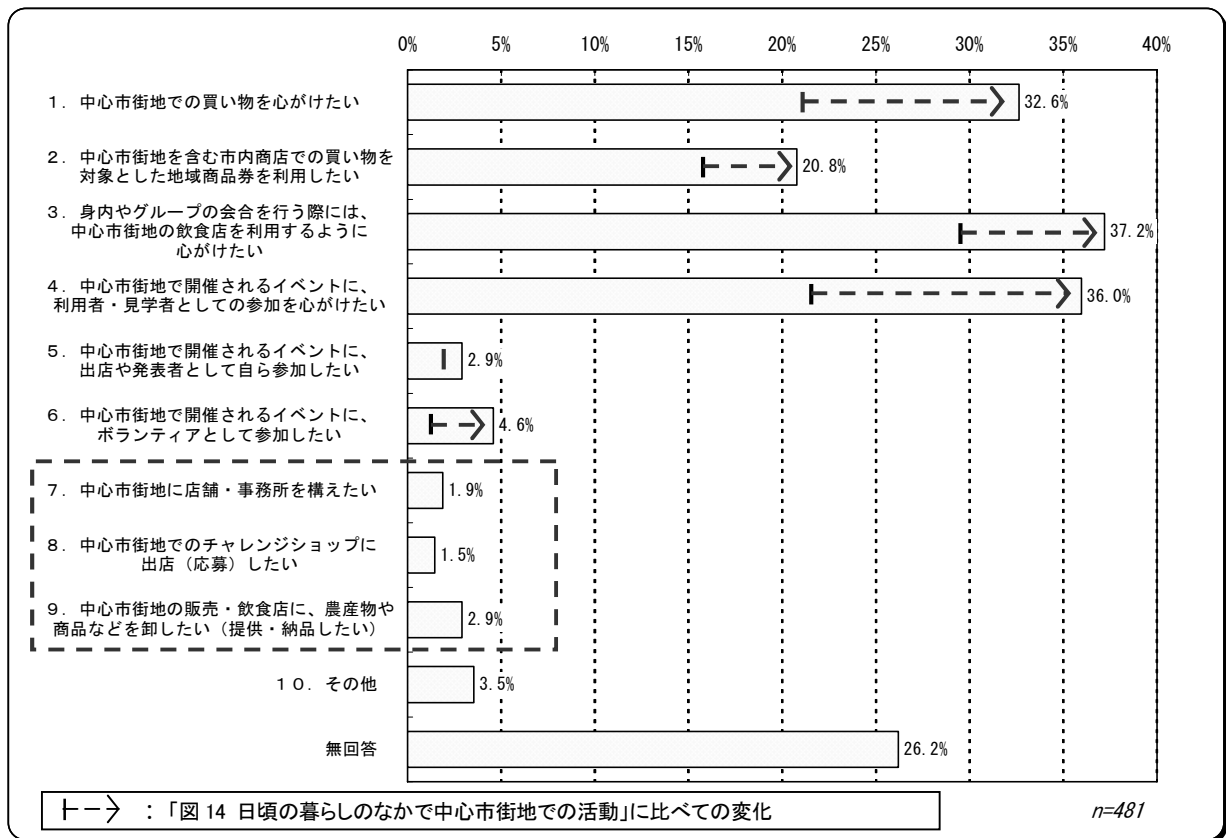


図 15 中心市街地での活動を増やす場合に、今後取組みたいもの

表 14 中心市街地での活動を増やす場合に、今後取組みたいもの【年齢とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

	1 中心市街地での 買い物を心がけ たい	2 中心市街地を 含む市内商店 での買い物を 対象とした地 域商品券を利 用したい	3 市内やグルー プの会合を行 う際には、中 心市街地の飲 食店を利用す るようにな らしたい	4 利用者・見学 者としての参 加を心掛け たい	5 中心市街地で 開催されるイ ベントに、出 店や発表者と して自ら参加 したい	6 中心市街地で 開催されるイ ベントに、ボ ランテアとし て参加したい	7 中心市街地に 店舗・事務所 を構えたい	8 中心市街地 でのチャレン ジショップに 出店(応募)し たい	9 中心市街地の 販売・飲食店 に、農産物や 商品などを卸 したい(提供・ 納品したい)	10 その他	無 回 答	合 計
問1-2)年齢												
20歳代	16 35.6	12 26.7	17 37.8	15 33.3	3 6.7	2 4.4	1 2.2	2 4.4	0 0.0	1 2.2	7 15.6	45 100.0
30歳代	15 27.8	7 13.0	16 29.6	19 35.2	2 3.7	2 3.7	3 5.6	0 0.0	1 1.9	2 3.7	16 29.6	54 100.0
40歳代	18 28.6	16 25.4	25 39.7	26 41.3	4 6.3	4 6.3	3 4.8	2 3.2	1 1.6	4 6.3	10 15.9	63 100.0
50歳代	30 28.6	23 21.9	40 38.1	34 32.4	2 1.9	7 6.7	2 1.9	1 1.0	3 2.9	3 2.9	28 26.7	105 100.0
60歳代	40 32.0	27 21.6	52 41.6	54 43.2	1 0.8	5 4.0	0 0.0	1 0.8	2 1.6	6 4.8	32 25.6	125 100.0
70歳代以上	39 41.1	16 16.8	30 31.6	26 27.4	2 2.1	2 2.1	0 0.0	1 1.1	7 7.4	4 4.2	35 36.8	95 100.0
合計	158 32.4	101 20.7	180 37.0	174 35.7	14 2.9	22 4.5	9 1.8	7 1.4	14 2.9	20 4.1	128 26.3	487 100.0

表 15 中心市街地での活動を増やす場合に、今後取組みたいもの【居住地とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

	1 中心市街地での 買い物を心がけ たい	2 中心市街地を 含む市内商店 での買い物を 対象とした地 域商品券を利 用したい	3 市内やグル ープの会合を 行う際には、 中心市街地の 飲食店を利用 するようには 心がけたい	4 中心市街地 で開催される イベントに、 利用者・見学 者としての参 加を心がけ たい	5 中心市街地 で開催される イベントに、 出店や発表者 として自ら参 加したい	6 中心市街地 で開催される イベントに、 ボランティア として参加し たい	7 中心市街地 に店舗・事務 所を構えたい	8 中心市街地 でのチャレン ジショップに 出店(応募)し たい	9 中心市街地 の販売・飲食 店に、農産物 や商品などを 卸したい(提 供・納品し たい)	10 その他	無 回 答	合 計
問1-5)居住地												
旧鳥取市	115 33.3	69 20.0	136 39.4	127 36.8	10 2.9	18 5.2	7 2.0	5 1.4	4 1.2	15 4.3	83 24.1	345 100.0
旧国府町	9 34.6	7 26.9	11 42.3	9 34.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 15.4	2 7.7	5 19.2	26 100.0
旧福部村	2 25.0	3 37.5	2 25.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	1 12.5	8 100.0
旧河原町	8 42.1	6 31.6	8 42.1	10 52.6	2 10.5	0 0.0	1 5.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 21.1	19 100.0
旧用瀬町	3 27.3	2 18.2	3 27.3	6 54.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 18.2	0 0.0	4 36.4	11 100.0
旧佐治村	2 22.2	2 22.2	1 11.1	1 11.1	1 11.1	1 11.1	0 0.0	1 11.1	1 11.1	0 0.0	4 44.4	9 100.0
旧気高町	8 32.0	7 28.0	6 24.0	9 36.0	0 0.0	1 4.0	0 0.0	0 0.0	1 4.0	2 8.0	7 28.0	25 100.0
旧鹿野町	0 0.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	3 37.5	8 100.0
旧青谷町	6 35.3	2 11.8	4 23.5	4 23.5	0 0.0	1 5.9	0 0.0	1 5.9	1 5.9	0 0.0	8 47.1	17 100.0
無回答	5 26.3	1 5.3	7 36.8	4 21.1	0 0.0	1 5.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 47.4	19 100.0
合 計	158 32.4	101 20.7	180 37.0	174 35.7	14 2.9	22 4.5	9 1.8	7 1.4	14 2.9	20 4.1	128 26.3	487 100.0

9) 農都連携について、関心・興味がある取り組み

- [10. 中心市街地における地元農産品の販売イベント(35.1%)]に対する関心が最も高く、次いで、[8. 中心市街地商店等での地産地消の推進(30.6%)] [11. 中心商店街において地産地消メニューの提供(26.8%)]となっている。<図16>

(年齢別<表16>)

- 20歳代は、[1. 滞在型市民農園などの環境との共生による豊かで魅力的な街並みの整備]に対する取組意向が高い。また、[3. 市民農園等に対する利用環境向上の促進]に対する意向も高いことから、農園に対する行動参加に対する積極的な意向がうかがえる。また、[無回答]の率も低いことから、農都連携に対する関心が高いといえる。

(地域別<表17>)

- 旧国分町、旧福部村、旧河原町、旧用瀬町では、各取組に対する関心意向が他の中山間地域より高く、かつ、[無回答]の割合も低いことから、農都連携による地域活性化に対する意向が高いといえる。

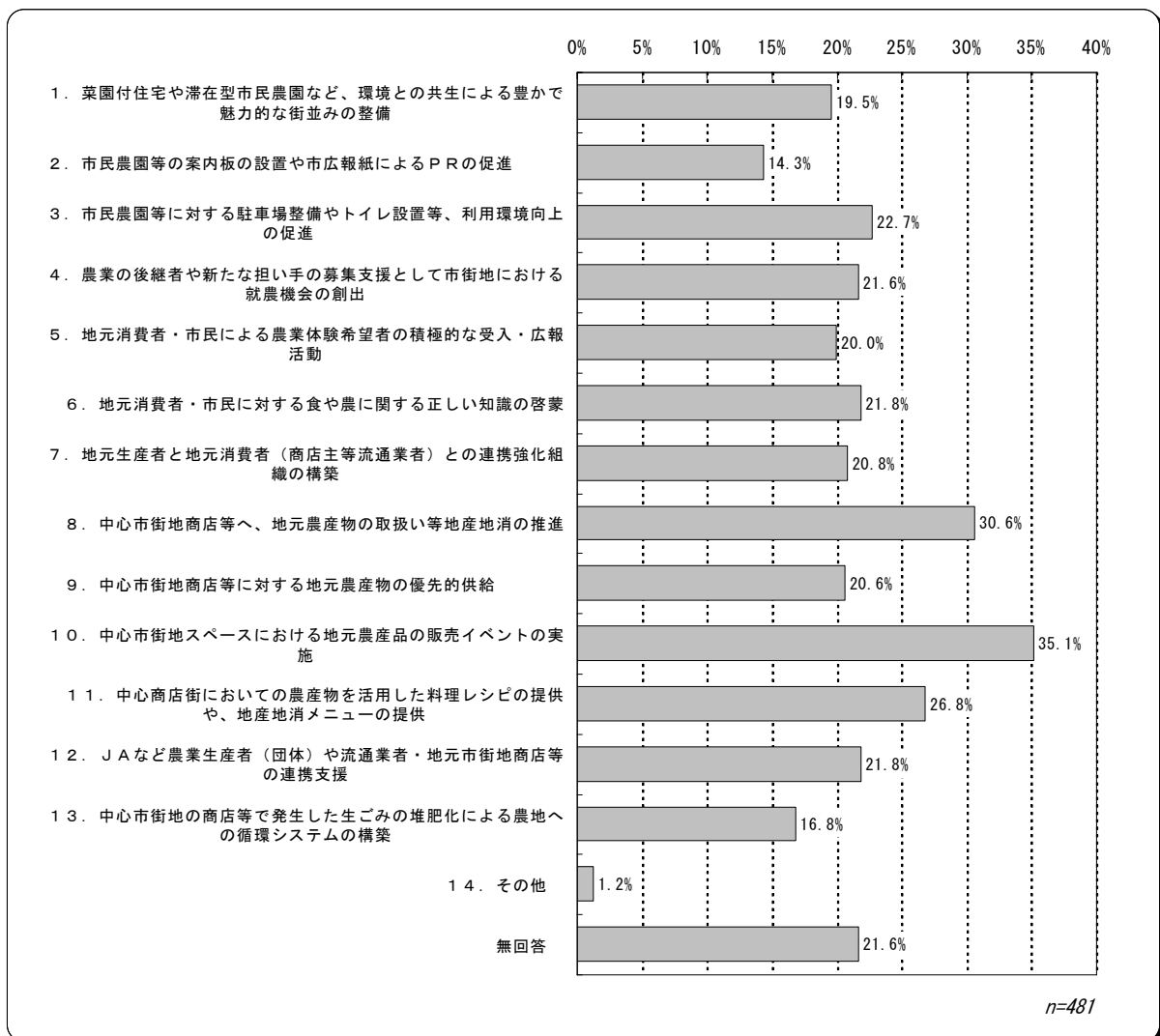


図16 農都連携について、関心・興味がある取り組み

表 16 農都連携について、関心・興味がある取り組み【年齢とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-2)年齢	1 境との 整備	2 菜園付 住宅の 共生に よるP Rの促 進	3 市民農 園等の 案内板 の設置 や市広 報紙	4 市民農 園等に 対する 駐車場 整備や トイレ	5 出援と して市 街地に おける 就農機 会の創 出	6 農業の 後継者 や新た な担い 手の募 集支	7 者地元 消費者 ・市民 による 農業体 験希望	8 地元の 積極的 な受入 ・広報 活動	9 する正 しい知 識の啓 蒙	10 地元の 消費者 ・市民 に對す る食や 農に関	11 通業(地 元生産 者との 連携強 化組織 の構築 等)	12 地元の 生産者 と地元 消費者 (商店 主等流 通)	13 扱い等 地産地 消の推 進	14 中心市 街地商 店等へ 、地元 農産物 の取	9 中心市 街地商 店等に 對する 地元農 産物の 優先的 供給	10 中心市 街地商 店等に 對する 地元農 産物 品の販 売イベ ントの 実施	11 中心市 街地商 店等に 對する 地元農 産物 品の新 しい販 売イベ ントの 実施	12 中心市 街地商 店等に 對する 地元農 産物 品の新 しい販 売イベ ントの 実施	13 中心市 街地商 店等に 對する 地元農 産物 品の新 しい販 売イベ ントの 実施	14 中心市 街地商 店等に 對する 地元農 産物 品の新 しい販 売イベ ントの 実施	無 回答	合 計
20歳代	15 33.3	9 20.0	17 37.8	11 24.4	7 15.6	8 17.8	5 11.1	12 26.7	8 17.8	13 28.9	18 40.0	4 8.9	6 13.3	0 0.0	5 11.1	45	100.0					
30歳代	14 25.9	6 11.1	11 20.4	7 13.0	8 14.8	8 14.8	10 18.5	12 22.2	9 16.7	19 35.2	15 27.8	10 18.5	7 13.0	1 1.9	11 20.4	54	100.0					
40歳代	13 20.6	8 12.7	12 19.0	20 31.7	13 20.6	12 19.0	16 25.4	17 27.0	11 17.5	24 38.1	21 33.3	12 19.0	9 14.3	2 3.2	9 14.3	63	100.0					
50歳代	16 15.2	17 16.2	20 19.0	30 28.6	22 21.0	25 23.8	23 21.9	40 38.1	23 21.9	38 36.2	34 32.4	23 21.9	22 21.0	1 1.0	17 16.2	105	100.0					
60歳代	27 21.6	20 16.0	34 27.2	25 20.0	27 21.6	33 26.4	31 24.8	44 35.2	35 28.0	50 40.0	29 23.2	42 33.6	26 20.8	1 1.6	25 20.0	125	100.0					
70歳代以上	10 10.5	11 11.6	16 16.8	12 12.6	20 21.1	19 20.0	15 15.8	22 23.2	13 13.7	25 26.3	12 12.6	15 15.8	11 11.6	0 0.0	41 43.2	95	100.0					
合計	95 19.5	71 14.6	110 22.6	105 21.6	97 19.9	105 21.6	100 20.5	147 30.2	99 20.3	169 34.7	129 26.5	106 21.8	81 16.6	6 1.2	108 22.2	487	100.0					

表 17 農都連携について、関心・興味がある取り組み【居住地とのクロス集計】

(複数回答)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

問1-5)居住地	1 境との共生 の整備	2 菜園付住宅 によるPR等 の促進	3 市民農園等 の案内板の 設置や市広 報紙	4 市民農園等 に対する駐 車場整備や トイレ	5 農業の後継 者や新たな 担い手の募 集	6 出援として 市街地にお ける就農機 会の創	7 農業者の積 極的な受入 ・広報活動	8 地元消費者 ・市民によ る農業体験 希望	9 地元消費者 ・市民に対 する食や農 に関	10 地元消費者 ・市民によ る農業体験 希望	11 地元消費者 ・市民によ る農業体験 希望	12 地元消費者 ・市民によ る農業体験 希望	13 地元消費者 ・市民によ る農業体験 希望	14 地元消費者 ・市民によ る農業体験 希望	無回答	合計
旧鳥取市	73 21.2	56 16.2	77 22.3	75 21.7	72 20.9	71 20.6	70 20.3	103 29.9	67 19.4	136 39.4	97 28.1	73 21.2	53 15.4	6 1.7	70 20.3	345 100.0
旧国府町	3 11.5	1 3.8	6 23.1	6 23.1	3 11.5	10 38.5	8 30.8	14 53.8	8 30.8	7 26.9	8 30.8	2 7.7	6 23.1	0 0.0	3 11.5	26 100.0
旧福部村	3 37.5	2 25.0	2 25.0	3 37.5	2 25.0	3 37.5	4 50.0	2 25.0	2 25.0	2 25.0	3 37.5	3 37.5	2 25.0	0 0.0	1 12.5	8 100.0
旧河原町	4 21.1	3 15.8	7 36.8	4 21.1	3 15.8	5 26.3	3 15.8	4 21.1	2 10.5	3 15.8	3 15.8	9 47.4	6 31.6	0 0.0	2 10.5	19 100.0
旧用瀬町	1 9.1	3 27.3	4 36.4	4 45.5	5 36.4	4 36.4	4 36.4	7 63.6	4 36.4	6 54.5	3 27.3	3 36.4	3 27.3	0 0.0	1 9.1	11 100.0
旧佐治村	2 22.2	0 0.0	0 0.0	3 33.3	2 22.2	2 22.2	1 11.1	2 22.2	3 33.3	2 22.2	2 22.2	3 33.3	0 0.0	0 0.0	3 33.3	9 100.0
旧気高町	6 24.0	2 8.0	5 20.0	3 12.0	4 16.0	6 24.0	5 20.0	4 16.0	5 20.0	6 24.0	6 24.0	5 20.0	6 24.0	0 0.0	8 32.0	25 100.0
旧鹿野町	0 0.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	2 25.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0	4 50.0	8 100.0
旧青谷町	2 11.8	1 5.9	3 17.6	3 17.6	2 11.8	3 17.6	2 11.8	6 35.3	2 11.8	4 23.5	3 17.6	2 11.8	2 11.8	0 0.0	6 35.3	17 100.0
無回答	1 5.3	3 15.8	5 26.3	1 5.3	4 21.1	1 5.3	3 15.8	3 15.8	4 21.1	2 10.5	3 15.8	3 15.8	3 15.8	0 0.0	10 52.6	19 100.0
合計	95 19.5	71 14.6	110 22.6	105 21.6	97 19.9	105 21.6	100 20.5	147 30.2	99 20.3	169 34.7	129 26.5	106 21.8	81 16.6	6 1.2	108 22.2	487 100.0

2.2.2 自治体アンケート

農都連携に対する課題、取組み及び意識等を把握することを目的に、広域合併をした結果人口規模が10万人から50万人となった全国の自治体に対してアンケートを実施した。

■配布：広域合併を実施した人口規模10～50万人の全国87市

■回答：64市

(1) アンケートの内容

設問 (カテゴリー)		アンケート内容
【1】	問 1-1	貴市の概要
	問 1-2	平成の大合併（H16年4月以降の市町村合併）の状況
	問 1-3	担当部署・担当者名（本調査の連絡先）
【2】	問 2-1	【農業振興に対する取組み】 貴市において、農業振興に対して取り組んでいる施策内容はどのようなことですか。（該当するものすべて：選択肢16）
【3】	問 3-1	【中心市街地活性化に対する取組み】 貴市において中心市街地の活性化に関する「中心市街地活性化計画」を作成していますか？（ひとつだけ回答）
	問 3-2	【中心市街地活性化に対する施策内容】 上記2-1.で“1.作成している” “2.作成している”と回答した方にお聞きします。貴市において、中心市街地の活性化に対して取り組んでいる施策内容はどのようなことですか。（該当するものすべて：選択肢28）
【4】	問 4-1	【中心市街地活性化と農業振興との連携施策】 貴市において、中心市街地の活性化と農業振興を連携して、地域振興に取り組んでいる施策内容はどのようなことですか。以下の選択肢の中から実施している施策を選んで、○をつけてください。（該当するものすべて：選択肢14）
	問 4-2	【今後取組みたい中心市街地活性化と農業振興の連携施策】 貴市において、今後、中心市街地の活性化と農業振興を連携させて、どのような取組みを実施したいと考えていますか。検討されている内容をお聞かせください。
	問 4-3	【中心市街地活性化と農業振興の連携施策実施の課題】 問4-1及び問4-2を踏まえ、貴市において、中心市街地の活性化と農業振興を連携させる施策の実施にあたり、課題となる点はありますか。（重要度の高い順に3つ：選択肢18）
	問 4-4	【農都連携による地域活性化方策に関する意見】 本調査のテーマである「中心市街地と農業地域の連携による地域活性化方策」に関して、ご意見やご提言お書き下さい。

(2) アンケート結果の概要

- 農業振興では、「学校給食での地元農産物利用や農産物のブランド化・付加価値化の促進」といった“食”に関する施策と、「農地集約化、農作業の共同・集団化」といった“農作業の効率化”の2本柱が主な取組み内容となっている。
- 中心市街地活性化策では、多くの市が中心市街地活性化計画を作成しており、ハード整備だけでなく、まちづくり支援や広報活動・情報発信などのソフト事業の展開と、並行して取組まれている。
- 農都連携では、食や農に関する正しい知識の啓発や販売イベント、それらに関する広報が主に取組まれているが、農業後継者不足や営農意欲の確保、農業生産者と流通業者の連携が課題とされている。

【農業振興に対して取組んでいる施策内容】

- ・ [学校給食での地元農産物利用の促進 (89.1%)] が最も多く、次いで [新規就農者の確保・育成など、就農希望者への対応 (84.4%)] や [農地の集約化や農作業の共同・集団化の促進 (81.3%)]、[農産物のブランド化など、付加価値化の促進 (76.6%)]、[農地の耕作放棄や遊休化の抑制 (市民農園化の推進) (65.6%)] となっており、**地元農産物の消費・高付加価値の促進を図るとともに、次世代の新規就農者の確保及び農地・農作業の効率化の促進策の実施が多い。**
- ・ 一方で、学校教育や市民生活における農業学習機会の導入・創出、地産地消推進組織や直売所の設置、直売所マップの作成などは概ね50%前後となっており、**単独で実施されている取組みが多く、より高い効果を得るために複合的な取組みを行うための余地が残されていると考えられる。**

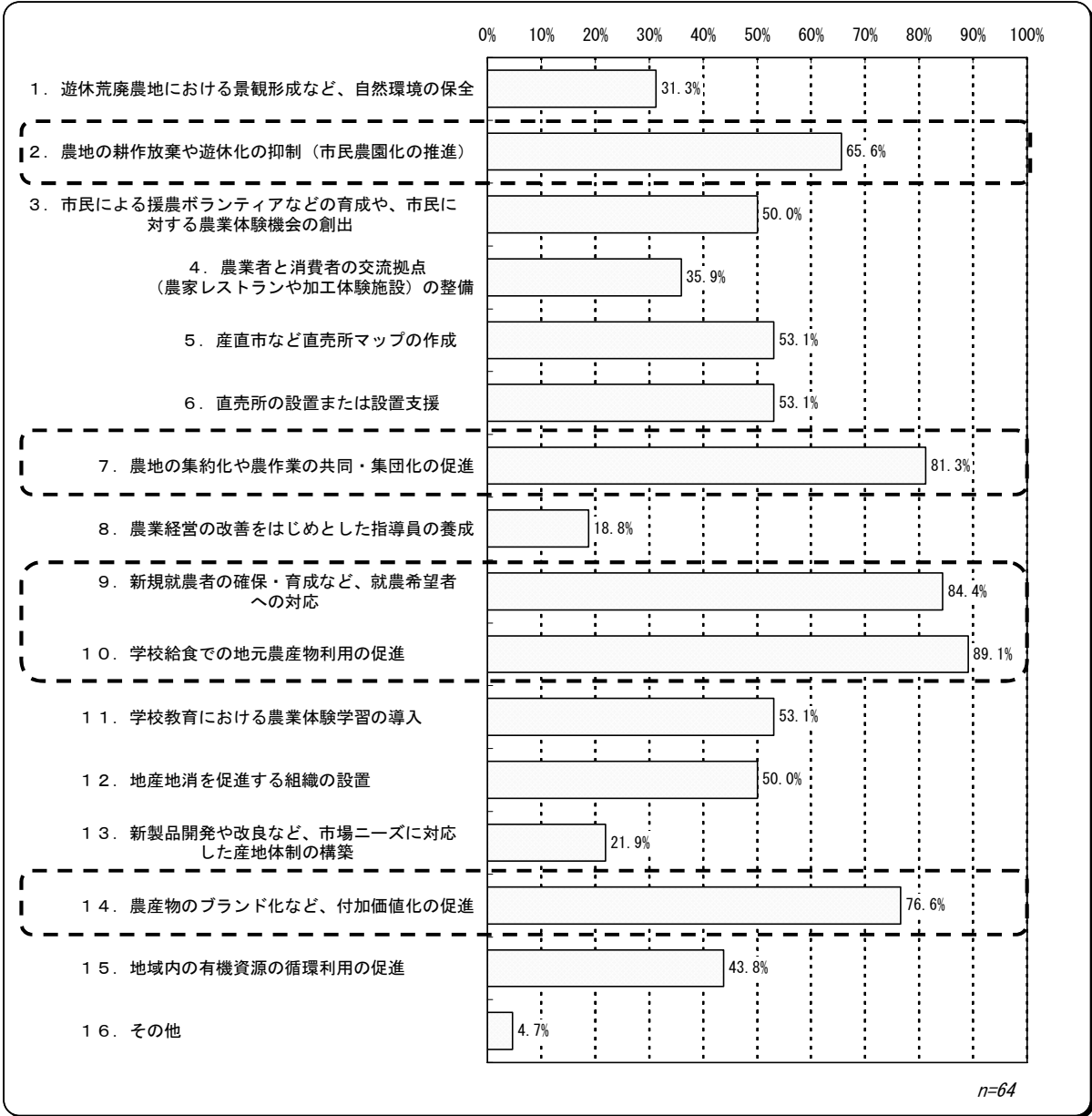


図 17 農業振興に対して取組んでいる施策内容

【中心市街地活性化計画の作成状況】

- ・旧法時のものから、現在申請中や今後認定を受ける予定のものまでを合わせると、85%を超える市が中心市街地活性化計画を作成している。

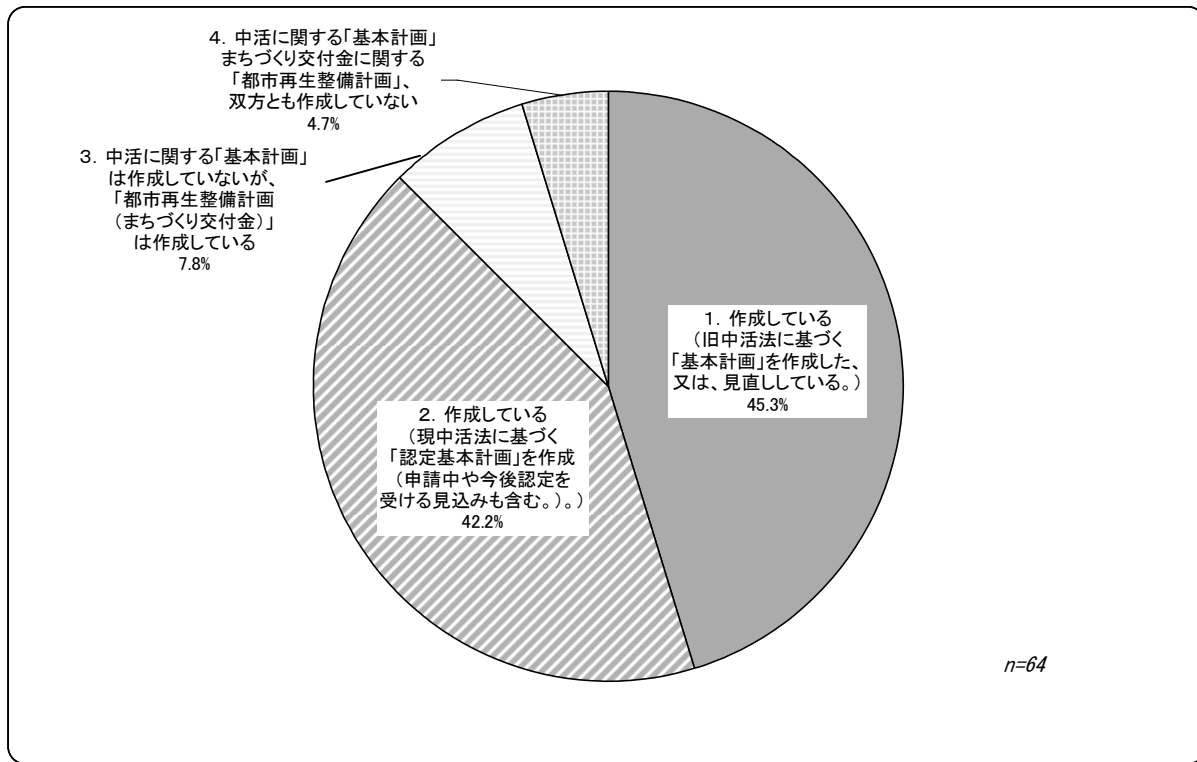


図 18 中心市街地活性化計画の作成状況

【中心市街地活性化計画を作成している市での施策内容】

・ [中心市街地の活性化に資する拠点施設の整備（誘致）（73.2%）] や [中心市街地へのアクセス利便性の向上等を図るための道路、街路整備の実施（73.2%）]、 [街なか居住推進のための住宅供給のための事業の実施（66.1%）] といったハード整備だけでなく、 [まちづくり活動の支援（91.1%）]、 [商業地の活性化を行う組織など活動支援（78.6%）]、 [市広報紙や市公式ホームページによる市街地への集客・イベント情報の発信（76.8%）]、 [市広報紙や市公式ホームページによる市街地への集客・イベント情報の発信（76.8%）]、 といったソフト事業の展開も高い回答割合を示している。

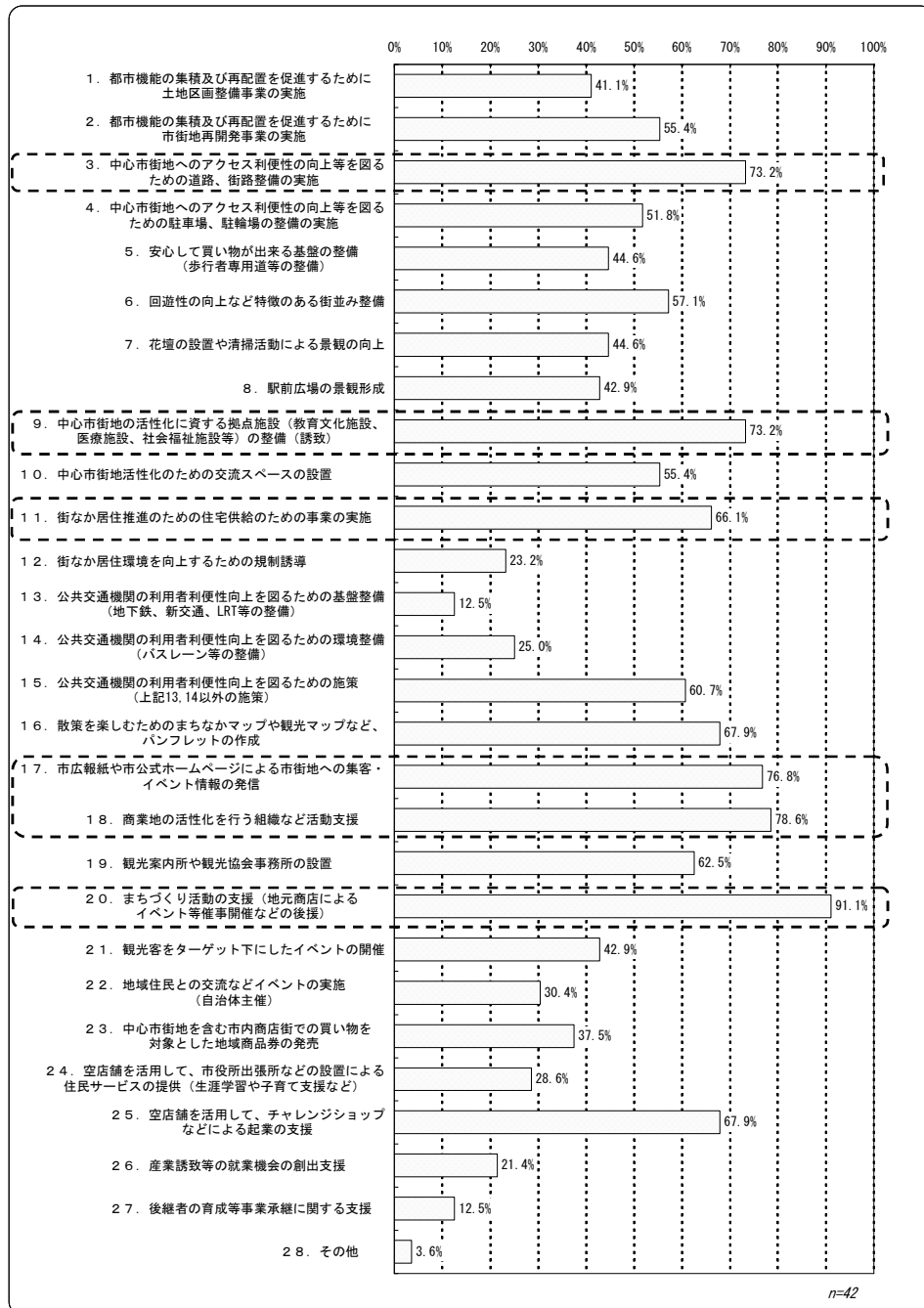


図 19 中心市街地活性化計画を作成している市での施策内容

【農業地域と中心市街地の連携】

- ・ [地元市街地スペースにおける地元農産物の販売イベントの実施 (56.3%)]、 [地元消費者・市民に対する食や農に関する正しい知識の啓発 (48.4%)]、 [市民農園等の案内板の設置や市広報紙によるPRの促進 (42.2%)]といった取組みへの回答が多い。

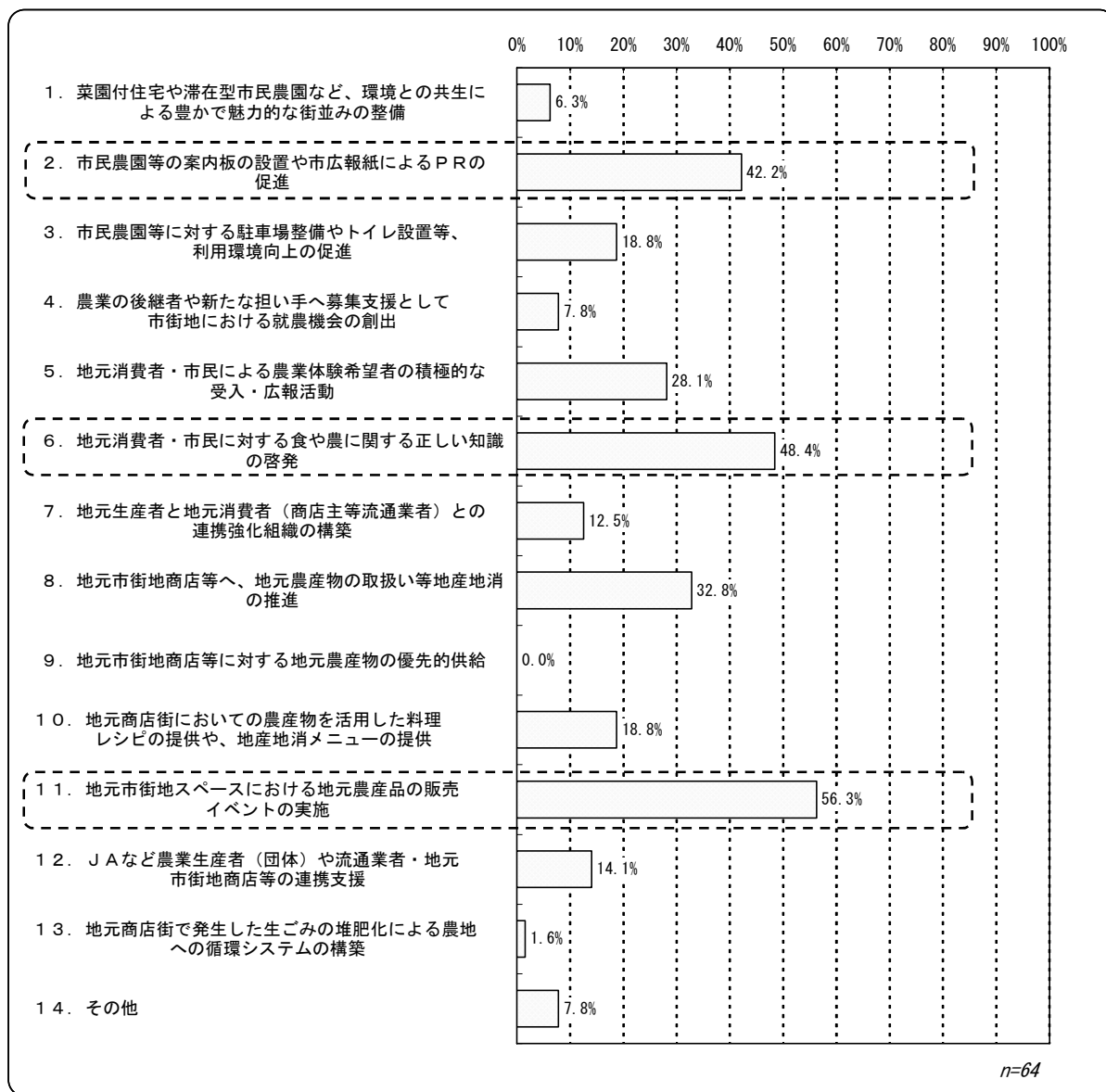


図 20 農業地域と中心市街地の連携内容

【農業振興と中心市街地の活性化を連携させる施策の実施にあたり、課題となる点】

・まず第一に営農者及び営農意欲の確保、農業地域と中心市街地が連携するための関係者間の協力、市場ニーズに合わせた商品開発力の確保に対する回答が高い。

- ① [農業の後継者や新たな担い手の不足、営農意欲の減退] (17.7%)
- ② [JAなど農業生産者(団体)や流通業者との連携・協力不足の解消] (11.7%)
- ③ [新製品開発などの市場ニーズに合致した商品開発力の確保] (11.5%)

[上段：回答数 下段：構成比(%)]

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	無回答	合計	
	中心市街地の都市化による農地の減少	耕作放棄地の増加とそれに伴う営農環境の悪化	農地の流動化や利用集積、集团的営農等の遅れ	農業経営指導者の育成・確保	農業の後継者や新たな担い手の不足や営農意欲の減退	JAなど農業生産者(団体)や流通業者との連携・協力不足の解消	新製品開発などの市場ニーズに合致した商品開発力の確保	地元農産物のPR不足の解消(積極的な広報活動の展開)	地元消費者・市民に対する食や農に関する正しい知識の啓蒙	地元消費者・市民に対する支援プログラム	地元消費者・市民に対する支援プログラム	地産地消を促進する団体・人材の育成	国・県をはじめとした研究機関との連携・協力不足の解消	地域内の有機資源の循環利用に対する理解の促進	地域内における有機資源の流通・利用システムの構築	農家の経営基盤の安定・強化に対する予算の確保	農業振興対策(上記15以外)に対する予算の確保	行政内の問題(各部署の施策の違いによる効率的な事業の実現等)	その他		
1位	2	2	5	1	15	8	7	6	5	0	4	0	0	1	0	2	2	2	2	64	
	3.1	3.1	7.8	1.6	23.4	12.5	10.9	9.4	7.8	0.0	6.3	0.0	0.0	1.6	0.0	3.1	3.1	3.1	3.1	100.0	
2位	1	4	2	3	8	9	9	5	5	0	6	0	1	1	4	0	1	1	4	64	
	1.6	6.3	3.1	4.7	12.5	14.1	14.1	7.8	7.8	0.0	9.4	0.0	1.6	1.6	6.3	0.0	1.6	1.6	6.3	100.0	
3位	1	3	0	0	7	3	5	4	8	1	8	0	0	2	9	3	2	3	5	64	
	1.6	4.7	0.0	0.0	10.9	4.7	7.8	6.3	12.5	1.6	12.5	0.0	0.0	3.1	14.1	4.7	3.1	4.7	7.8	100.0	
総合店	9	17	19	9	68	45	44	32	33	1	32	0	2	7	17	9	10	11	19	384	
	2.3	4.4	4.9	2.3	17.7	11.7	11.5	8.3	8.6	0.3	8.3	0.0	0.5	1.8	4.4	2.3	2.6	2.9	4.9	100.0	

表 18 自治体アンケート対象先

	自治体名	法定人口	推計人口	備 考	推計人口統計日		自治体名	法定人口	推計人口	備 考	推計人口統計日
1	函館市	294,264	284,546	中核市	2009年9月30日	46	白山市	109,450	110,749		2009年10月1日
2	釧路市	190,478	186,962		2009年9月30日	47	福井市	269,144	267,398	特例市	2009年10月1日
3	北見市	129,365	125,972		2009年9月30日	48	富士市	253,297	254,077	特例市	2009年11月1日
4	青森市	311,508	302,143	中核市	2009年10月1日	49	沼津市	208,005	205,231	特例市	2009年11月1日
5	八戸市	244,700	238,380	特例市	2009年10月1日	50	磐田市	170,899	171,253		2009年11月1日
6	弘前市	189,043	183,041		2009年10月1日	51	焼津市	143,101	143,531		2009年11月1日
7	盛岡市	300,746	298,293	中核市	2009年10月1日	52	藤枝市	141,944	141,983		2009年11月1日
8	奥州市	130,171	126,394		2009年10月1日	53	掛川市	117,857	118,111		2009年11月1日
9	一関市	125,818	120,522		2009年10月1日	54	島田市	102,108	100,901		2009年11月1日
10	花巻市	105,028	102,480		2009年10月1日	55	米子市	149,584	148,134		2009年10月1日
11	石巻市	167,324	161,192		2009年10月1日	56	松江市	196,603	194,402		2009年10月1日
12	大崎市	138,491	135,658		2009年10月1日	57	出雲市	146,307	144,960		2009年10月1日
13	秋田市	333,109	325,837	中核市	2009年10月1日	58	倉敷市	469,377	473,983	中核市	2009年10月1日
14	横手市	103,652	99,107		2009年10月1日	59	津山市	110,569	107,732		2009年10月1日
15	鶴岡市	142,384	137,825		2009年10月1日	60	福山市	459,087	462,247	中核市	2009年10月1日
16	酒田市	117,577	112,702		2009年10月1日	61	呉市	251,003	242,933	特例市	2009年10月1日
17	福島市	297,357	294,191		2009年10月1日	62	東広島市	184,430	187,962		2009年10月1日
18	会津若松市	131,389	127,759		2009年10月1日	63	尾道市	150,225	146,102		2009年10月1日
19	高崎市	364,919	369,130	特例市	2009年11月1日	64	廿日市市	115,530	115,050		2009年10月1日
20	前橋市	340,904	338,749	中核市	2009年11月1日	65	三原市	104,196	101,894		2009年10月1日
21	太田市	213,299	214,549	特例市	2009年11月1日	66	下関市	290,693	282,047	中核市	2009年10月1日
22	伊勢崎市	202,447	204,781	特例市	2009年11月1日	67	山口市	191,677	192,140		2009年10月1日
23	桐生市	128,037	122,261		2009年11月1日	68	宇部市	178,955	174,306		2009年10月1日
24	甲府市	199,749	198,483	特例市	2009年11月1日	69	周南市	152,387	149,608		2009年10月1日
25	水戸市	262,603	265,270	特例市	2009年10月1日	70	岩国市	149,702	144,636		2009年10月1日
26	つくば市	200,528	212,445	特例市	2009年10月1日	71	高松市	418,125	418,749	中核市	2009年10月1日
27	日立市	199,218	193,559		2009年10月1日	72	丸亀市	110,085	110,727		2009年10月1日
28	古河市	145,265	143,870		2009年10月1日	73	高知市	348,990	340,985	中核市	2009年10月31日
29	土浦市	144,060	144,534		2009年10月1日	74	久留米市	306,434	304,124	中核市	2009年10月1日
30	筑西市	112,581	108,976		2009年10月1日	75	飯塚市	133,357	131,196		2009年10月1日
31	取手市	111,327	109,543		2009年10月1日	76	佐賀市	241,361	238,210		2009年10月1日
32	佐野市	123,926	121,778		2009年10月1日	77	唐津市	131,116	127,967		2009年10月1日
33	那須塩原市	115,032	116,882		2009年10月1日	78	長崎市	455,206	444,117	中核市	2009年10月1日
34	鹿沼市	104,148	102,960		2009年10月1日	79	佐世保市	258,262	251,630	特例市	2009年10月1日
35	長岡市	283,224	279,256	特例市	2009年10月1日	80	諫早市	144,034	141,195		2009年10月1日
36	上越市	208,082	204,193	特例市	2009年10月1日	81	八代市	136,886	132,676		2009年11月1日
37	三条市	104,749	102,175		2009年10月1日	82	大分市	462,317	470,826	中核市	2009年10月1日
38	新発田市	104,634	102,202		2009年10月1日	83	宮崎市	366,897	369,706	中核市	2009年10月1日
39	長野市	378,512	377,023	中核市	2009年10月1日	84	都城市	170,955	168,507		2009年10月1日
40	松本市	227,627	226,546	特例市	2009年10月1日	85	延岡市	135,182	130,787		2009年10月1日
41	上田市	163,651	159,941		2009年10月1日	86	霧島市	127,309	127,662		2009年10月1日
42	飯田市	108,624	105,691		2009年10月1日	87	鹿屋市	106,208	104,808		2009年10月1日
43	佐久市	100,462	99,913		2009年10月1日	88	薩摩川内市	102,370	99,615		2009年10月1日
44	富山市	421,239	420,423	中核市	2009年10月1日	89	うるま市	113,535	115,035		2009年10月1日
45	高岡市	181,229	176,562		2009年10月1日						

※法定人口は、平成17年の国勢調査により集計された人口数

※推計人口は、国勢調査を基礎として、毎月の出生・死亡・転入・転出を加減して算出された推計値を基とした人口数

2.2.3 ワークショップ

農都連携方策検討のため、地域内の農村地区住民及び中心市街地地区住民を対象に、地区内住民を対象としたワークショップを地区毎に1回、両地区合同のワークショップを1回の計3回実施した。

(1) ワークショップ当日の開催プログラム

対象者が参加しやすい時間帯に合わせて、以下の時間配分でワークショップを実施した。

農村地区・中心市街地地区ワークショップ		合同ワークショップ	
05 分間	開会／挨拶／進行役紹介	05 分間	開会
25 分間	農都連携とは？ 事例を含め説明	25 分間	前回のおさらい
15 分間	WSの目的及び 作業手順の説明	10 分間	WSの目的及び 作業手順の説明
40 分間	グループ作業①	60 分間	グループ作業
05 分間	休憩	05 分間	休憩
40 分間	グループ作業②	20 分間	グループ作業発表
20 分間	グループ作業発表	計 120 分間	閉会
計 150 分間	閉会		

(2) 進行方法及び全体及び各回のテーマ

上記プログラムに基づき、「自分達で取組めることは何か」について検討した。

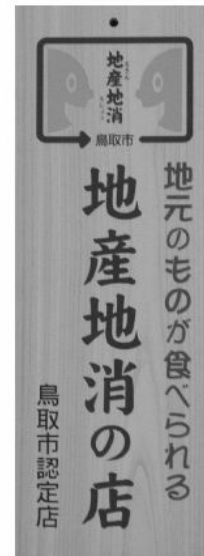
農都連携とは？

- 背景
 - ◆中山間地域と中心市街地のそれぞれにおいて...
 - ▶人口減少、高齢化
 - ▶広域合併市における農業集落と中心市街地の空洞化の同時進行
 - 多様な困難に直面している。
 - ◆そうした困難に打ち勝ち、圏域の持続的発展を遂げるには...
 - ▶地域の底力を発揮・強化することが急務
 - ◆そのため、地域底力を強化する新基軸として...
 - ▶新たな交流連携である「農都連携」による地域再生戦略が必要

- 「農都連携」とは...
 - ◆農業集落(中山間地域)と中心市街地の活性化を一体的に推進するための具体的方策

鳥取市の取組①...地産地消店舗の認定

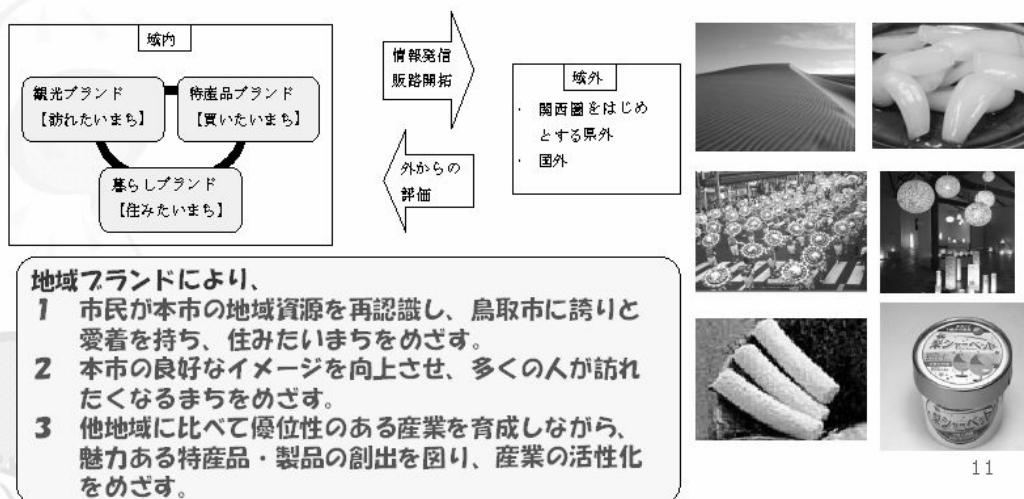
- 地元の農林水産物を積極的に活用する飲食店等を「地産地消の店」として認定し、支援することにより、地産地消を一層推進する取組みを行っており、地元農産物を積極的に活用している店を募集しています。
- 認定の対象
 - 地元で生産された農林産物や地元で水揚げされた水産物を食材として活用する市内の飲食店、直売所
- 認定店への支援措置等
 - 認定店となると、シンボルマーク入りの認定証と看板を交付するとともに、市のホームページ等で店を紹介します。また、認定店対象の融資制度があります。



10

鳥取市の取組②...鳥取ブランドの特産品づくり

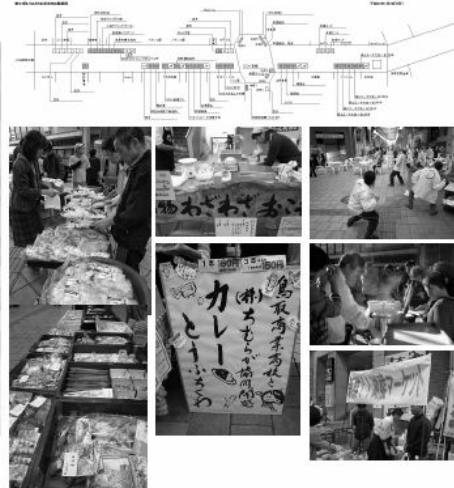
- 鳥取の資源の魅力や技術力の高さなど、既存の強みを活かし、特産品のブランド化・高付加価値化の推進を図る。



11

鳥取市の取組③...いなばのお袋市

- 中山間地域の農産品・特産品を販売する朝市として、中心市街地の回遊性向上や滞留時間の延長、中心市街地活性化効果の周辺地域への波及を図る。



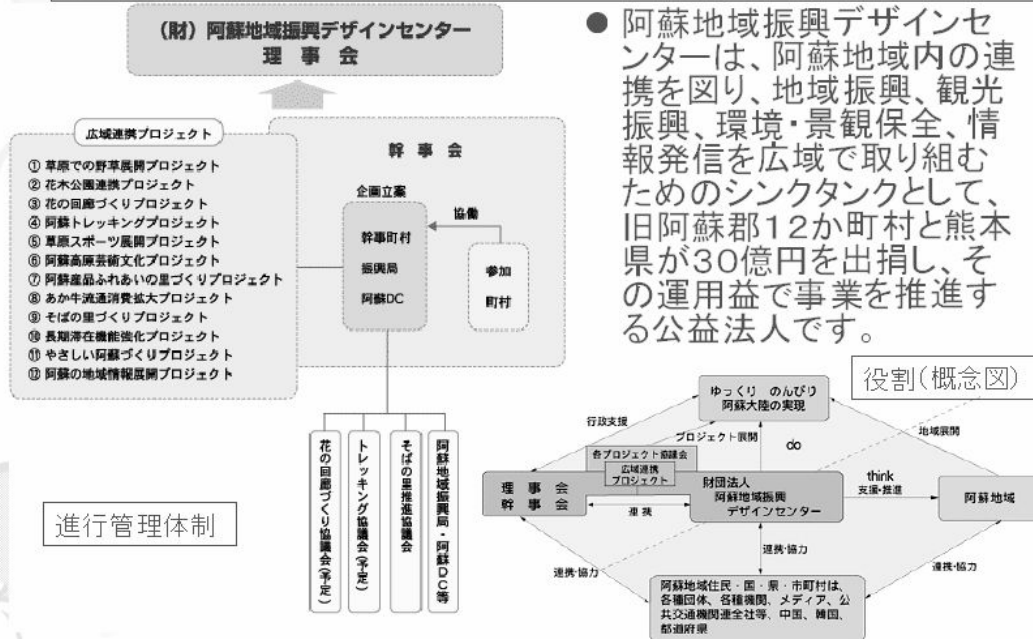
その他の取組...MAB(中山間地域応援隊)

- 鳥取環境大学の学生サークル「MAB」が、鳥取県内の農家の所得向上や地域の生産物を地域で消費する「地産地消」の知識を消費者に伝えることを目的とした『学生産直市』を企画し、実施している。
- * MAB(中山間地域応援隊):
- 中山間地域の新たな“まちおこし”につながる取り組みを支援。地域の方と連携した農産物販売や、田んぼを利用した自主イベントを企画実践等、中山間地域と人々をつなぎ、地域単位の交流を行っています。



- 日時毎月第三日曜日
午前8時半～11時
- 場所:市役所・正面入口通路

その他事例...阿蘇デザインセンター



ワークショップの流れ

■気高地区ワークショップ

【第1回】平成22年2月12日(金)

「農都連携」を踏まえ、現在気高地区で取り組んでいる地域活性化(農業振興)について考えよう!

■鳥取中心市街地地区WS

【第1回】平成22年2月12日(金)

「農都連携」を踏まえ、現在中心市街地地区で取り組んでいる活性化について考えよう!

各地区で話し合われた内容を、気高地区(中山間地域)と中心市街地地区と一緒に話し合うことで、「農都連携」の具体的な取り組みを抽出します!

■気高地区・鳥取中心市街地地区 合同ワークショップ

【第2回】平成22年2月23日(火)

「農都連携による活性化」の具体的な取り組み
～自分たちでできることからはじめよう!～

本日のテーマ

現在、気高地区で取り組んでいる地域活性化(農業振興)について議論しましょう！

- ① 気高地区における地域活性化(農業振興)の課題・問題は何でしょう？
- ② ①で議論した「課題・問題」を踏まえ、解決のために、自分達で取り組めること(具体的なメニュー)は何でしょう？

19

本日のテーマ

現在、中心市街地地区で取り組んでいる活性化について議論しましょう！

- ① 中心市街地地区における活性化の課題・問題は何でしょう？
- ② ①で議論した「課題・問題」を踏まえ、解決のために、自分達で取り組めること(具体的なメニュー)は何でしょう？

18

本日のテーマ

前回の議論の内容を踏まえ、中山間地域と中心市街地が連携して活性化することについて議論しましょう！

- ◆ 「農都連携(中山間地域と中心市街地の連携)による活性化」の具体的な取り組み(自分達でできること)は何でしょう？

グループ作業の要領①

～ 地域活性化(農業振興)の課題・問題を考えよう!～

- ① 自己紹介をする(みんなが知り合いの場合は不要)
- ② グループ作業の発表者を決める
- ③ 最初に、一人ひとりが「気高地区における地域活性化(農業振興)の課題・問題」ということを黄色のカードに記入する(5枚以内・5分程度)
- ④ 順番にカードに書いた内容を説明し、説明が終わったらカードを模造紙に貼り付ける
- ⑤ みんなの説明が一巡したらカードを分類・整理する
- ⑥ 分類されたカードを見ながら、みんなで意見交換を行い、カードを付け加える
- ⑦ 最後に、分類したカードを色マジックで囲み、それぞれの分類にタイトルをつける

20

グループ作業の要領②

～ 課題解決に向け、自分達で取り組めることを考えよう!～

- ① 最初に、一人ひとりが、グループ作業①(前半)で議論した課題・問題を踏まえ、解決のために、「自分達で取り組めること(具体的なメニュー・アイデア)」を桃色のカードに記入する(5枚以内・5分程度)
- ② カードに記入したら、模造紙にどんどん貼り付け、似通った内容のカードを分類する
- ③ 分類されたカードを見ながら、みんなで意見交換を行い、カードを付け加える
- ④ 最後に、分類したカードを色マジックで囲み、それぞれの分類にタイトルをつける【できたら、各グループのお勧めプログラム(具体的なメニューの組合せ)まで考える】
- ⑤ グループ発表の準備をする

22

(3) 各地域住民を対象としたワークショップ

	気高地区：上光コミュニティーセンター	中心市街地地区：市役所第二庁舎
開催日時 (参加者数)	平成 22 年 2 月 12 日 (金)	
	13:30～16:10 (11 人)	17:30～20:10 (11 人)
内容	<p>①気高地区における地域活性化(農業振興)の課題・問題は何でしょう？</p> <p>②上記①で議論した課題・問題を踏まえ、解決のために、自分達で取組めることは何でしょう？</p>	<p>①中心市街地地区における地域活性化の課題・問題は何でしょう？</p> <p>②上記①で議論した課題・問題を踏まえ、中山間地との連携を念頭にして、解決のために、自分達で取組めることは何でしょう？</p>
結果概要	<p>①後継者がいなく、農業が儲からないという意見が二つの班から共通して挙げられた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・売れない・お客さんが来ないや、販売システム上への課題も挙げられた。 <p>②生産コストの削減とともに加工品への工夫・ブランド化を図り、付加価値をつけることなど、売れる(儲かる)商品の開発や、販売方法を見直すことで、農家の経済力向上につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そのような取組みが後継者不足の解消に効果を表すとともに、生産者と消費者の交流によって農業の魅力を感じてもらうことが、新たな就農者の確保や消費拡大につながる。 	<p>①町内会・商店街ともに高齢化とリーダーとなる若い人材不足によってコミュニティ意識が低下するとともに、地元住民の無関心化が進んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車スペースの問題やシャッター通りの元となる空き店舗の問題もあり、商店の売り方・ソフト展開の課題が挙げられた。 <p>②中山間地との連携を念頭に中心市街地の活性化を図るために、市街地と農業者で話し合いの場をつくり徹底的に話し合いを行って、農産物を活用した合同朝市の開催や、空き店舗を活用した農産物マーケットの実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者向け店舗や新しいイベントの実施などの継続性のある事業実施が考えられた。 ・それらのためにコミュニティの育成・強化とともに、それを推進するリーダー・コーディネーターを商店街から意図的につくることが必要。



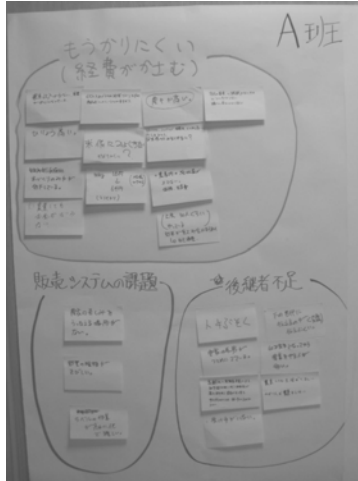
(気高地区でのワークショップの様子)

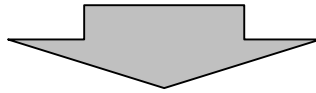


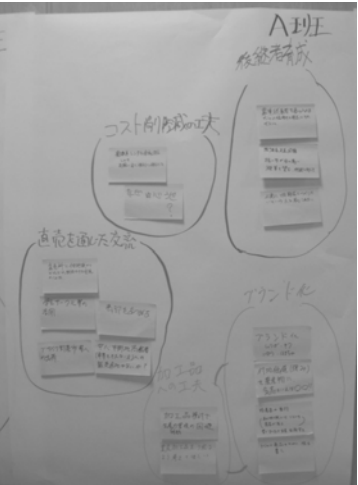
(中心市街地地区でのワークショップの様子)

【気高地区:A班】

地域活性化(農業振興)の課題・問題と、自分達で取組める解決策


地域活性化の課題・問題		課題・問題の内容
	後継者不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人手不足、農家の長男が勤めに出ている
	もうかりにくい (経費がかさむ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業収入が少ない、兼業が中心になっている、農産物の純収益が上がらない(価格・生産費)、 ・ 農機が高い、肥料が高い、農業してもお金が入らない、現在の農業は機械がなくてはどうにもならない(購入にお金がかかりすぎる) ・ 米作りの魅力が低下している、米作に魅力がない(儲かりにくい) ・ 1万円→6千円(コシヒカリ 30kg) ・ 収入を上げるため野菜づくりをするが、商品化へのハードルが高すぎる ・ 野菜が全てお金にならない(→自己消費)、上光は30人ぐらいやっている
	販売システムの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農家の苦しみを訴える場所がない ・ 野菜の価格が厳しい ・ ラベルの作業が高齢化で厳しい

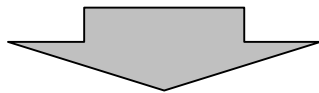


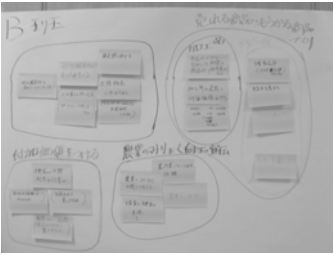
地域活性化に自分達で取組める解決策		解決策の内容
	後継者の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業従事者を受け入れるだけの経済力を農家に持たせること ・ 担い手が受け易い施設を望む(行政に対して) ・ 上光に、畑・野菜をつくりたいという人を取り込みたい
	コスト削減の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農機具レンタル会社の設立(気軽に安く便利に使えること) ・ なぜ中心地?
	直売を通じた交流	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直売所に他地域からどんどん訪問できる交流のしかた ・ 学生サークル等の活用、情報を集める ・ ブサイク野菜市等への出荷 ・ 中心市街地高齢者(車等を持たない方)への販売余地はないか?
	ブランド化	<ul style="list-style-type: none"> ・ しょうが、菊、ごぼう、浜茶 ・ 付加価値(強み)を農産物に(気高といえば〇〇!!) ・ 特産品の集約(皆でまとまって生産・出荷する) ・ ラベルに商品の説明・絵を書く
加工品への工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産時期の重複の回避 ・ 農産加工品を売れるように考えて欲しい 	

【気高地区:B班】

地域活性化(農業振興)の課題・問題と、自分達で取組める解決策

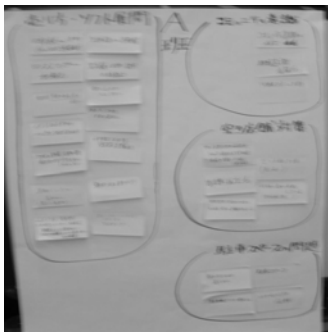
地域活性化の課題・問題		課題・問題の内容
	後継者がいない	<ul style="list-style-type: none"> 後継者不足、高齢化、高齢化により自分では畑を耕せない 若者がいなくなった、次世代の若者等の農業集落が大切という気持ちが欠けているような感じ 当地だけの活動だけでなく、他地区の人も協力してもらって発展させなければ活性化しない、専業農家は10%で、90%は兼業農家
	儲からない	<ul style="list-style-type: none"> 儲けが少ない、機械が高額でお金が必要、生活水準が低下、人が少ないため生産量と販売価格が低迷、生産意欲がある人が多いが経営者が少ない、50~60万円/年の収入を100万円/年目指す
	売れない・お客さんが来ない	<ul style="list-style-type: none"> 生産者が同じ品種ばかりでふれあい市が発展しない、品揃えが難しい、ふれあい市の会員をもう少し増やして品物を増やすことが重要、各農家の人が少しでも生産物を出してもらいたい、生産者が増えお客様の人数も増やせたらと思う、売る楽しさを得られない 農協から何か新しい品物や売れやすいものを教えてもらいたい、公民館を利用して加工物も出来たらと思う

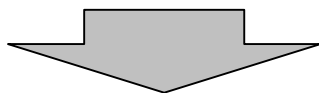


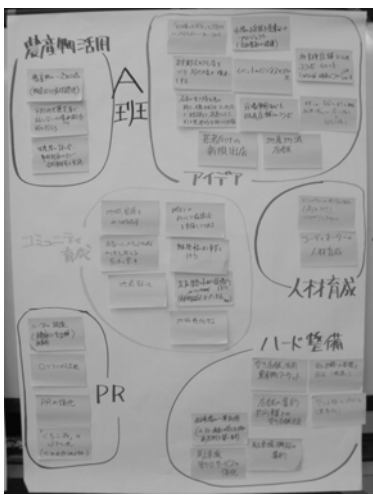
地域活性化に自分達で取組める解決策		解決策の内容
	農業の魅力を宣伝	<ul style="list-style-type: none"> 農業の魅力を感じてもらう、農作業ノウハウ伝承体験、生産者と消費者の交流
	付加価値をつける	<ul style="list-style-type: none"> 消費者との信頼関係をどう築くか、売るのではなく買ってもらう、名前を見て買ってくれる、良いものは継続して買ってくれる
	売れる商品・儲かる商品づくり	<ul style="list-style-type: none"> 変形した野菜の商品化(お弁当屋さんなど)、加工所を建設して付加価値をつける 少量多品目でリスクを回避、多くの品種をつくる、出荷時期をつらす
	販売方法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 販売網を広げる、出張販売に力を入れる(イベントに合わせて)、人が集まる場所に出店(ガソリンスタンドなど)、地元農産物を求めているところにPR

【中心市街地地区:A班】

地域活性化の課題・問題と、自分達で取組める解決策

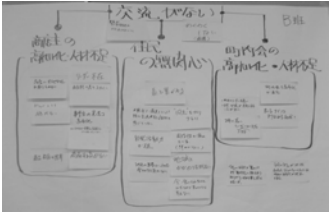

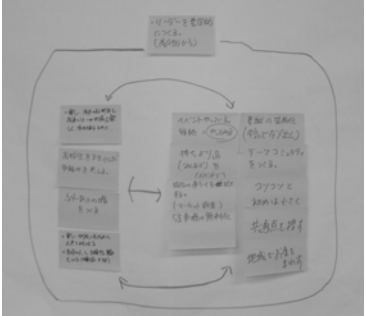
地域活性化の課題・問題	課題・問題の内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内部消化へのこだわり(外へ向かう意欲のなさ)、ビジネスモデル形骸化、先進性への消極性、若年層の利用・誘引の稚拙さ、新しいものが入ってこない、魅力ある店の不足、イベントはにぎやか→次につなげるには?、地元の野菜・果物を食べたいが目立たないから分からない、PRが足りない(朝市・MAB)、行政における財政支援を、魅力あるまちづくり、まちににぎわいを取り戻す・人通りが多い・買い物客が多く、鳥取らしさの店がない(農水産物)、お袋市(青年部)・木の祭りでバザー(女性会)・野菜を出して頂けない(たくさん種類・スーパーに売っていない旬の野菜)
コミュニティ意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティ意識の低下、継続意識希薄化、後継者不足の問題、
空き店舗対策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心市街地の活性化、シャッター通りをどうすれば、各店の努力・行政、商店街の孤立化、空き店舗対策(産直)、行きたい店が点在している、世代交代するのではなくそのまま空き店舗となっている
駐車スペースの問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車がなければ暮らせない、駐車場だけが増えている、駐車スペース、駐車場問題(無料)



地域活性化に自分達で取組める解決策	解決策の内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他業種店舗同士のコラボイベント(例えば、時計とワインとトマトとか)、まずは自分のまちに誇りを持ち自信を持つ、市場のお客様を営業マンにプロジェクト(流通業者との提携)、イベントのビジネスモデル化、市場(朝市)などと既存店舗のコラボ、地産地消店舗、因幡のお袋市を題材に活性化に取り組む、まず都会的な店をつくり周辺の店が後追いをする、各店が生き残る為に新しい魅力的なコンセプトを相談して鳥取らしくそして先進的な町づくりをする、若者向けの新規出店 ・ 農産物の一次加工品(販売及び食材提供)、市街地と農業者で話し合いの場をつくり徹底的に話し合う、生産者と話し合い年間計画のもとに合同朝市を実施 ・ 地域資源を見つめなおす、お互いにメリットがあるやり方を考える、売り手と買い手、地消すること、地区でのまちづくり協議会を実施しつつある、継続性のある事業を行う、若者集客のための居場所作り(商店街の協力でオープンカフェ)、地域参加する

	人材育成	・ コミュニティーの関係強化（商店街）、つながりを大切に、コーディネーターの人材育成
	ハード整備	・ 空き店舗の集積を図る、空き店舗を活用する、空き店舗活用・農産物マーケット、店舗の集約・共同事業での空き店舗出店、駐車場機能の集約、駐車場割引サービスの強化、駐車場の二重利用（土・日・夜間を商店街に貸し出す）
	PR	・ ニーズの調査（消費者・通過者及び空き店舗）、口づてによる広報、PRの強化、くちこみのシステム化（くちこみは作られるもの）

【中心市街地地区:B班】

地域活性化の課題・問題と、自分達で取組める解決策		
地域活性化の課題・問題	課題・問題の内容	
	交流がない	・ わくわくしない、農家が中心市街地に入り込めない
	店主の高齢化・人材不足	・ リーダー不在、事業主の急速な高齢化、次の担い手がいない、商店街の店に入りにくい、商店にホスピタリティーを感じられない、ガランとして活気がない、商売する気がない、商品・商店の限界
	町内会の高齢化・人材不足	・ 町内会も高齢化が進む、特に若いリーダー・人材が不在、町内のリーダー不足、まず地域が元気になることが第一、出る杭は打たれる社会？
	住民の無関心	・ 表と裏がある（本音と建前）、現状に満足している？（特に交流する必要性を感じていない）、“同志”をつくりづらい、関係性が崩れている（絆がない）、地域と関わりを持ちたがらない、地元の集客イベントにも参加する気がない、自発活動力が不足、今食べられることが大切で先のことは考えない
		
地域活性化に自分達で取組める解決策	解決策の内容	
	リーダーを意図的につくる（商店街から）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を楽しく活力のあるものに、高校生を巻き込んだ取組みを考える、ふれあいの場をつくる、高齢の人を支援する輪もつくる（婦人会大切） ・ 継続的にイベントをやってみる、みんなで品を持ち寄りイベントづくり、現在の連携を拡大する（マーケット調査）、駐車場の無料化 ・ 意識の共有化、テーマコミュニティをつくる、共通点を探す、コツコツと初めは小さく、地域でお金を回す

(4) 両地域住民を対象とした合同ワークショップ

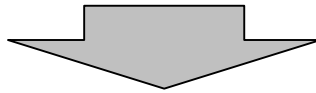
鳥取市役所 本庁舎6階 第1会議室	
開催日時	平成22年2月23日(火) 13:30~15:30 (9人)
内容	①気高地区及び中心市街地地区における「地域活性化の課題・問題を解決するために自分達で取組めること」の内容を踏まえ ②「農都連携による活性化」の具体的な取組み(自分達で取組めること)
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> ●農村部及び市街地のそれぞれの課題を解決しつつ、農都連携による一体的な活性化を図るためには、既存の仕組みを超えた大胆な発送による取組みが必要 ●取組みメニューや、取組を束ねるための組織が大事(下図は例) <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <pre> graph TD A[土地] --> C[マネジメント組織] B[周辺農家] --> C C -- 展開 --> D[域外者の農業] C -- アドバイス --> D E[就農舎] -- アドバイス --> C </pre> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●メニューや取組を束ねるための組織が大事 ●やる人を募る。お金を出してくれる人を募る ●個々ががんばっているのを束ねて大きな力に!!子供 etc. を絡めていけたら ●事業(ビジネス)の段階にきている。まずはマーケティング(お客のリストづくり)、TELして買ってくれる人をつくる。ソーシャルビジネスはのりやすい ●トップランナーが重要(ビジネス化、やりがい) ●自らも生産している。3ha(米)、1ha(畑)、20ha(梨) ●出品者が自ら値付け。直売所の売り上げ(米以外)は約300万円程度 ●売値を“まかせろ”。農協を中心にした価格調整から自分で価格を付けたい ●大阪の小学校のプログラムに米作り(年間を教え込む) ●連携・交流がキーワード、PRの仕方が重要。システムづくり ●消費者とMABとの話し合いが生産者の思い。がある(次ステップ)




(合同ワークショップの様子)

【気高地区・中心市街地地区：合同班】

中山間地域の課題・問題（再確認）
<p>●小規模農家は生活できない（採算が合わない）、●若い就農機能者に夢を与えられない（農家は儲からない）、●生産者の高齢化に拍車をかけて後継者が育たない、●農村地区での販売システムがおかしい（自分の方が安く売れる）、●農協組合員以外はJAに出品できない（余った農産物をなんとかしたい）、●直売所間での競争が激しい（駐車場が重要）、●直売所の将来性・出品者の高齢化（→モノがなくなる・直売所もなくなる）、●60～70人の出品会員のうち、常時出品するのは20～30人（売れる売り方を分かっている人は高齢者が多い）、</p>
中心市街地地区の課題・問題（再確認）
<p>●中心市街地よりも湖山の方が市場として魅力がある（中心市街地は人が歩いていないのに家賃が高い）、●湖山は家賃が安い・商売がしやすい、</p>





地域活性化に自分達で取組める解決策	解決策の内容
	<p>中山間地域</p> <p>●農家の活性化・営農意欲の向上のために、農業・農家のプロデュースが必要、●農業の魅力の見せ方・関心の高め方を工夫する努力も必要（農業者側の問題）、●楽しみながら体験できる仕組み（ノウハウの共有一人を呼ぶ）、●一過性でなく、値付けから加工までを体験させる、●販売方法を変える？自分から売りに行く（設備投資も必要）したくてもできない、●継続性のあるイベント。一次品と二次加工品の組合せ。定期的な出店。B級野菜を用いた新しい商売方法。ニーズにあった方法、●B級野菜レストラン●新しいアイデア（リスクを取る）ビジネス化→加工品+直売、●加工品向上 etc. は市の補助金が出せる</p>
	<p>中心市街地</p> <p>●大胆な発想!!土日は（中心市街地で駐車場がないので）道路（若くさと智頭）を一方通行にして駐車場にする、●個々の小さな活動を束ねて地域の大きな動きにすること</p>
	<p>農都連携 （中山間地域と中心市街地の連携）</p> <p>●教育の一環として地域社会の中で取組む●小学校のプログラムでラベル貼り</p>

2.3. 他都市事例の把握

2.3.1 他都市視察

農都連携方策の参考とするため、広域合併した他都市事例を把握する。

(1) 視察先及び視察実施日

	山口市（山口県）	松江市（島根県）
視察日時	平成22年3月4・5日	平成22年3月8・9日
人口(約19.8万人)	約19.9万人	約19.3万人
面積(約770m ²)	約1,030m ²	約530m ²
位置	 <p>(出典：山口市ホームページ)</p>	 <p>(出典：松江市ホームページ)</p>
市町村合併状況	小郡町・秋穂町・阿知須町・都地町と新設合併(H17.10)、阿東町を編入合併(H22.01)	松江市・鹿島町・島根町・美保関町・八雲村・玉湯町・宍道町・八束町の1市6町1村による新設合併(H17.03)

(2) 視察結果概要

<ul style="list-style-type: none"> 地域おこし協力隊として都市部から中山間地域に若者を派遣し、1週間程度の農作業を体験させるとともに、農作業以外の地域活動の担い手として、中山間地域の空き家を活用した長期間の受入も行うなど、中山間地域への人材供給を図っている。また、旧地域毎に設置されたコミュニティ団体によって、地域資源の棚卸しが行われており、今後の農都連携による具体的な取組みが検討されていた（山口市）。 特産品であるボタン（花卉）は、昭和30年代から海外への輸出を開始するなど、他の地元農産物においてもブランド化に取り組んでいる。また、農商工連携協議会を立上げるとともにコーディネーターを配置するなど、地域資源を活用した地域活性化に取り組むを開始したところであった（松江市）。
--

(3) 視察結果

山口市（山口県）

～市役所におけるヒアリング～（経済部商工振興課、中山間地域活性化推進室）

（中山間地の抱える課題及び現況、市の施策について）

- 平成 21 年の 3 月に山口市食料・農業・農村振興プランを策定し、取り組みを開始したところであり、「魅力と活気のある農村づくり」のための施策として都市と農村の交流推進を掲げ、朝市などを活用した地域農産物販売活動や観光農園、都市農村交流イベントの開催などをはじめとし、市民農園、棚田オーナー制といった参加型交流活動を行っている。
- また、今後は農家民泊や都市と農村の二地域居住などの滞在型交流などを展開していく予定であり、朝市マップ（現在 31 箇所）も作成している。朝市マップには旬の食材カレンダーをつけるなど、消費者の目線に立ち工夫をしている。
- ただし、直売所については、郊外から集荷してくるための輸送、集荷する人、直売を行う場所をどう確保するかといった問題がある。
- 農産物ブランド化は施策として展開されておらず、特産品の発掘を目的とした「地域資源発掘事業」を通じて今後強化していくとのことであった。
- 付加価値化については、農業生産法人が生産したリンゴを菓子等に加工したり、車エビの殻を用いた工芸品があるが、特に行政から支援を行っていない。
- 市域の 7 割が森林で林業が盛んなことから、林地残材等のペレットを用いた木質バイオマスボイラーを支所（1 か所設置）や、保育所にペレットストーブを設置しており、今年度にバイオマスタウン構想を策定予定。県森連と連携してペレットストーブの購入助成を行っている。
- 来年度に、NPO法人地球緑化センターの「緑のふるさと協力隊」より、1 名を受け入れ、市内の 400 名程度の集落において見守り等も実施してもらう予定でいる。
- 山口市内で援農ビジネスを展開している NPO 法人学生耕作隊は、自発的に生まれた団体とのことで、市の施策と連携や協働は行っていないとのこと。



（中心市街地の抱える課題及び現況、市の施策について）

- 山口市では、平成 19 年に中心市街地活性化基本計画を策定し、「にぎわい」「暮らしやすさ」「自然と文化の調和」をキーに県の中核都市として機能の集積を目指すとともに、30 万人都市となるために他の自治体ともアプローチしながら準備を進めているとのこと。
- 商店街は駅通り商店街が 2 か所、東西 800m にも連なっているアーケード商店街が 5 か所あるとともに、アーケード商店街の西側の「どうもんパーク」、東側の井筒屋百貨店による 2 核十字モール構想が展開されている。
- 商店街通行量については、一時は落ち込んだこともあったが、「どうもんパーク」の設置

の効果もあり、中心市街地活性化基本計画における目標値をクリアし、また、中心市街地区域内居住人口も増加し、目標値を達成している。

- ・ 空き店舗については、県内平均が約 12%に比べ、山口市 8.9%と下回っているが、空き店舗を地主が貸しつけないという鳥取市と同様の問題を抱えている。

～道の駅「仁保の郷（にほのさと）」～

- ・ 山口市より北東方面に車で 15 分程度（距離にして約 10 km）に存在する道の駅「仁保の郷（にほのさと）」は、農産物等の直売所ではないが、逆に市街地の住民が買い物に出かけて賑わいを生むなど、地域住民のコミュニティスポットとしても活用されている。
- ・ 同施設は、平成 12 年 10 月にオープン。地産地消や少量多品目生産のノウハウを活かした道の駅であり、施設の管理、運営は自治会が中心となり、農協や森林組合が出資する有限会社「仁保の郷」を設立して、運営を行っている（建設費は市が負担）。
- ・ 登録生産者は 220 名。客は年間 60 万人程度。地域通貨「ふしの」での商品購入が可能。
- ・ 地域活動の拠点として、また、地域の高齢者の生きがいづくりにも大きく寄与しており、地域の農産物直産市の常設化（いろどり市）や女性グループによる農産物加工品組合の立上げ、加工場の設立（パン・餅・菓子工房）など地域住民による取組が実践されている。
- ・ 「いろどり市」では地域の米、規格外野菜等が低価格で販売されていた。
- ・ 山口市内では JA が経営主体となっている直売所はゼロとのことで、また、朝市等の取り組みも点在するが常設型のものは珍しく、域外からでも安全で新鮮な食材を求めに来られる客が多いとのこと。

～各アーケード商店街～

- ・ 平成 10 年に、中心市街地に出店していたダイエーとサティが相次いで撤退し、この頃から中心市街地に空き店舗が目立つようになった。その後、店の新旧入れ替わりが頻繁に起こるようになり、50 代以下の経営者が 9 割を占めるなど稀な若返りを果たしている。
- ・ ダイエー跡地には平成 13 年に「コープやまぐち」が入店したが、施設の老朽化や敷地面積の問題から商店街振興組合が平成 18 年に周辺の土地を買い取り（一部賃借契約）、「どうもんパーク」建設に着手。当該事業は、「教養文化施設、食料品店などの機能を持った中心商店街の西の拠点を整備する事業」として山口市中心市街地活性化基本計画に位置付けられ、平成 20 年 10 月に新規に開店した井筒屋百貨店（アーケード東側に属する中市商店街）に及び難いところを、市民の日常生活と共存するための諸機能で補完する面を大きく前面に打ち出そうとしている。

松江市（島根県）

～市役所におけるヒアリング～（産業経済部農業企画課、同農林課、JAくにびき営農部）
（中山間地の抱える課題及び現況、市の施策について）

- ・ 合併後の松江市を対象とした新しい「松江市農業振興計画」を平成20年3月に策定し、「担い手の育成・確保」「農畜産物の生産振興と地産地消の推進」「優良農地の確保と農村環境の維持向上」の三つを柱として取り組んでいる。
- ・ 小規模兼業農家が多く、総農家数、販売農家数ともに減少傾向。



- ・ 合併地域（特に旧八雲村地域）においては、鳥獣被害の件数が多く問題となっていたが、猪肉の活用が進められ「やくも猪舞い」というブランド名での販売（地元猟友会のメンバーが中心になり結成した八雲猪肉生産組合）も行っている。八雲町の温泉施設「ゆうあい熊野館」において、生産組合からミンチ肉を買い取り、「ししバーグ」と名付けたハンバーグ定食が販売されるなど、地域活性化の取り組みが進んでいる。

（農産物のブランド化推進、新商品開発について）

- ・ 特産品である牡丹、玄丹そば、西条柿、雲州人参等について、生産、出荷等に関する助成を行っている。特に牡丹は輸出促進を行っており、生産者や関係機関と一体となって輸出のさらなる拡大を図っている。牡丹については、周年開花の特許を市が取得している。
- ・ 玄丹そばは、「玄丹そば協議会」（平成9年～）の事務局が産業経済部農林課にあり、生産者、そば店、製粉業者、JA及び行政が一体となって生産振興、消費拡大に取り組んでいる。そばは、転作作物として推奨しており、当時生産規模は10haであったが現在は140haまで拡大しており、そば焼酎（平成16年～）、玄丹そばパスタ（平成19年～）など、加工品の取り組みも進められている。
- ・ 新たな特産物の創造としては、島根大学に新特産物（クワイ、オウトウ）の栽培等研究委託を行い、また、生産協力農家に対し栽培助成（ハウス等ハード面での支援）を実施している。

（朝市等の取組みについて）

- ・ 水辺の朝市は、土佐の街路市を参考に市長のトップダウンによって昭和63年から始まり、もともとは無人市など乱立していたが、このときにある程度産直へと集約され、平成15年から市役所駐車場で実施されている。なお、市では出展料の徴収は行っていない。
- ・ 同朝市の事務局はJAくにびきが務め、会員は松江市管内の個人農家で30名程度。会費は3,000円（年間）であり、開始当初から会員の退会等は少ない。
- ・ 宍道湖周辺のホテル等よりパンフレットの設置要望を受けるなど、観光客（宿泊者）の関心も高い。
- ・ 毎週日曜日の開催は定着し、当日は朝早くから多くの人でにぎわい、1時間もすれば全て

売り切れてしまうとのことで、来場者としては 200 名程度。地元の人に加え、その立地条件（宍道湖近く）から、観光客が足を運ぶことも多いとのこと。

- ・ J Aによる直販としては、年間 6 億円程度の売上があり、J Aグリーンかわつ（島根大学付近）、J Aくにびき稲香家（松江駅高架下）の人気の高い。J Aくにびき稲香家については、市街地活性化の一環として設置したこともあり、駅周辺在住の高齢者等が多く訪れている。

（松江市の観光と特産品販売との連携について）

- ・ 「農林水産祭」「暖談食フェスタ」において、玄丹そば協議会による特産品等の販売を行っている。また、「大根島ぼたん祭」を開催し、市内外からの来場者に対し、牡丹のPRを行っている。
- ・ 牡丹の輸出に関しては、昭和 30 年代から行っているものであり歴史が深い。輸出量としては、年間 40 万本～50 万本程度。牡丹協議会、J Aくにびきに対し、陳列、調査、販売等について補助金を支出し支援を行っており、来年度には台湾台北市で開催される「2010 台北国際花卉博覧会」へ松江大根島牡丹を出展する。仁多米も出展の予定。予算規模としては 1,000 万円程度を予定しており、併せて松江市観光のPRも予定している。

（松江市やくもアグリパークについて）

- ・ 平成 16 年 7 月に、旧八雲村において、滞在型体験農園施設として国により整備され、現在はNPO法人八雲総合サービス協会が指定管理者として管理運営を行っている。
- ・ 貸農園としては 40 区画あり、35 区画が埋まっている。年間の利用料は 25,000 円。
- ・ 宿泊施設の稼働実績としては、平成 19 年度が 627 人、平成 20 年度が 589 人。県外者の利用は 4 割程度。設置当時はグリーンツーリズムの考え方が強い施設だったが、現実としては、安価な料金設定により、観光を目的とした利用が多いとのこと。
- ・ 同施設内のグリーンハウスにおいては、予約があれば地元農家により、郷土料理の提供も行うとともに、平成 21 年度より、NPO法人八雲総合サービス協会の主催により「農業塾」を開催。月に 2 回、10 か月の開催で定員 15 名に対し、予想を超える募集があり、平成 22 年度も継続して実施する予定。

～中心市街地等視察～

- ・ J R 松江駅西側隣接地の鉄道高架下に、地場産の生鮮食料品店 5 店と地場産食材を扱った飲食店 2 店で、松江こだわり市場が平成 16 年 3 月にオープンしている。
- ・ 松江こだわり市場は、高架下の管理会社、松江市、商工会議所、観光協会、J Aが協議会を設立し、地産地消の推進、中心市街地の活性化と観光振興、高架下の有効利用等を目指して運営している。
- ・ また同施設では、地産地消の推進と米の有効利用を図るため、J Aが独自に開発した米麺ラーメン（米粉使用 60%）が比較的安価で販売されるなど、軽食を行える施設があり、駅周辺というアクセス状況も加えて、特色ある施設となっている。
- ・ なお、米粉ラーメン「くにびき稲香麺」は、売上年間 14 万食以上を販売しており、原料米は管内で収穫された J A米のみで、製粉・製麺工場も J Aが設立している。

- 松江市が商店街のにぎわい創出、集客力の向上のため、旧日銀松江支店を活用し、「匠」をテーマにした製造・販売一体型の観光商業施設として、平成 12 年に「カラコロ工房」をオープンしており、入館者は年間約 30 万人。「カラコロ工房」を中心に、カラコロ広場（京店商店街）、カラコロ通り（南殿町商店街）との連携により回遊エリアが形成されている。
- カラコロ工房については、入居テナントについても統一性が図られており、集客戦略等のコンセプトが明確である。
- 松江城のすぐそばに島根県物産観光館が設置されており、農産加工品だけでなく、地元農産物も販売されている。JA によるものだけでなく、地元生産者及び生産団体によるものもあり、松江市における物産販売の拠点のひとつとなっている。

2.3.2 自治体アンケートにおける特徴的な回答

農都連携方策の参考とするため、広域合併した人口規模 10～50 万人の自治体アンケート結果から、農都連携に対する取組み状況及び農都連携による地域活性化方策に関する課題・意見・提言のうち、特徴的な回答を以下に整理する。

- ・ 農都連携に関して既に取り組んでいる施策内容及び将来的に取り組みたい施策内容についても、地元農産物を活用した“食”と“農”の啓発・情報発信並びに“地産地消の推進（販売イベント）”の実施が中心となっている。
- ・ その取組みにあたって、各市ともに知恵を絞り、地域の特性にあった工夫を凝らして展開している。

■農業振興と中心市街地の活性化を連携させて、どのような取組みを実施したいと考えているか。

《既実施済みの取組み》

- ・ 中心市街地活性化の一環におけるご当地グルメの推進によって、地元農産物の活用を仕掛けている。（富士市）
- ・ 農産物紹介ツアーや広報のほかに、保育園児や小学生を対象とした収穫体験・地元料理実習・地元農産物紹介実習の実施。（高崎市）
- ・ 周辺地域の農産物を中心市街地に一同に集め、地域との交流を図るとともに、地域の祭りを中心市街地で開催することで、都市としての統一感の醸成を図る。（唐津市）
- ・ 高付加価値化が見込まれ、当市で収穫される農産物 16 品目を「一押し逸品」として認定し、普及・加工品化を支援。（福井市）

《実施を検討している取組み》

- ・ 中心市街地の公園や空き店舗等のスペースを活用し、市内農家が生産・加工した産品を定期的に出店するフリーマーケットの開催。（盛岡市）
- ・ 対消費者だけでなく、食関連事業者と農業生産者をマッチングさせるプログラムの実施。（富士市）
- ・ 地元農畜産物を地元市民が直接味わう機会がほとんどないため、直接手に取り味わうことができる場を中心市街地に準備し、スローフードフェスタの開催を検討。（前橋市）
- ・ 地元農産物を活用した地元ならではの「食」を中心市街地で創作し、創作メニューや家庭料理として情報発信。（福井市）
- ・ 高齢者層を対象を絞り込んで、寺社・景観などのまち歩きに、地元農産物の果樹（桃・梨・洋梨・葡萄）を活用したスイーツフェアを開催。（三条市）
- ・ 株式会社組織のまちづくり会社が、地元商店街で農産物の直売所を運営しており、そこを通じた地元農産物の消費拡大と、商店街と生産者等の交流拡大。（諫早市）
- ・ 中心市街地に蓄積されている都市機能と、地域の持つ伝統や文化、農業・畜産業などの地域資源等の多様な機能連携によるまちづくりを考えている。（都城市）

■農業地域と中心市街地の連携による地域活性化方策に関する課題・意見・提言

- ・ 地域の実情を考慮した解決方法や手段などを講じていくことが肝要であり、その取組みを継続的に実行していくキーパーソン（団体等）を掘り起こし、育成していくことが重要。（前橋市）
- ・ 農業と商店街をつなぐ人材（リーダー）組織の不在。（都城市）
- ・ 地域により目指すべき連携の方向性が異なる。（焼津市）
- ・ 他の施策との結びつきによって全体の波及効果を得るような、循環する仕組み・機能が必要。短期的には情報発信力が施策成功のカギとなり、コミュニティと行政が一体となってギブ&テイクの関係で、みんなに利益がでる仕組みの構築が必要。（米子市）
- ・ 地元の宿泊施設や飲食店において、地場産農業生産物の利用促進を行っているが、店舗側から少量他品目の供給を求められており、新たな流通の仕組みづくりが課題。（松本市）
- ・ 農業施策(事業)導入は元来農業振興地域内となっており、市街地導入は困難。また、中心市街地の空き店舗を利用した農産物や加工品等の販売には、近隣スーパーへの影響もあり導入が難しい。ただし、住民の高齢化や商店の撤退、公共交通の不便さが増した住宅団地内に、地元農産物を提供する取組みを通じて、住宅団地コミュニティの再生と、農業地域の活性化を目指している。また、都市住民のパワーを農業地域で活かすべく援農ボランティア制度を創設し、年間延 600 人が農繁期に活動している。（大分市）

表 19 特徴的な回答のあった自治体概要(アンケート結果より抜粋)

自治体名	面積 (㎡)	人口 (万人)	第1次産業 の割合(産業 別就業人口)	基幹産業	合併時期 (平成年月)	関係 市町村数
鳥取市	770	19.9	7.4%	卸売・小売業、製造業 サービス業等、農業等	16年11月	1市6町2村
盛岡市(青森県)	886	29.3	4.2%	卸売・小売業、 サービス業	18年1月	1市1町
高崎市(群馬県)	401	34.4	3.7%	商業	18年1月 18年10月 21年6月	1市3町1村 1市1町 1市1町
前橋市(群馬県)	241	31.9	5.1%	卸売・小売業、 サービス業等	16年12月 21年5月	1市1町2村 1市1村
富士市(静岡県)	245	25.6	2.6%	製造業	20年11月	1市1町
焼津市(静岡県)	71	14.3	3.6%	水産業	20年11月	1市1町
松本市(長野県)	919	22.4	0.3%	観光業等	17年4月	1市4村
三条市(新潟県)	432	10.5	5.0%	製造業、農業、 観光業等	17年5月	1市1町1村
福井市(福井県)	536	27.1	3.0%	製造業、卸売・小売業	18年2月	1市2町1村
米子市(鳥取県)	132	15.1	4.9%	商業、農業	17年3月	1市1町
唐津市(佐賀県)	487	13.2	14.3%	農業	17年1月 18年1月	1市6町1村 1市1村
諫早市(長崎県)	321	14.2	7.5%	農業、製造業	17年3月	1市5町
大分市(大分県)	501	47.2	2.5%	重化学工業	17年1月	1市2町
都城市(宮崎県)	654	16.9	12.0%	畜産業	18年1月	1市4町